836
209
3

莠草年録

堤蟻叢書

四十二

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

隄蟻叢書

四三

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

金忠助傳

芳野金子紙之寫勢刕竹川巷三郎と申者表第堀町ニ罷在為御琴御用相勤候処
者四年前弊庵江相見ヘ候事中間ゟ仙臺侯御屋敷ニ留守居ニ用支有之相談ゟ處
留守居申聞ゟ藩ニ金忠助と申者有之十九歳之時以
風聞相立ゟ故竊ニ梁川江隠きゟ其前松前侯江封ニ復ゟ願種々
忠助献策筆ニ奇中被復奮封ゟ何卒滿内ニ差置度段申聞候得共大志有
故堅ク辞退ニ付ゟ仁成ゟ謝愛由ニ付十金之印紙ヲ貰入用之節引換可被
下由相期朋友四五人之力ヲかり右ニ妓ヲ竊ニ蝦夷地ニ航シ御紋服杯着シ種々
夷人ヲ欺ゟ得共信用ニ不致ゟ其内食料其外不自由之品有之ゟ本國ニ申遣ゟ何
成共入用之品取寄可遣由申聞ゟ依テ夷人共試ニ數種申遣ゟへハ印紙ヲ与ヘ差遣
ス無幾程ニ其外之品々并夷人申出品不殘積越嚴歸ゟ始テ御連被ニ

高野蔵書
大正5年3月購 27

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

相違有之間敷と申るの、御成一同敬尊致奉事ハ何年相過後欤魯西亜ニ条ハ節戰爭有之殊の外偉功を立ハ歟一小侯、被取立ハ其烈寒難堪の河腰地ニ移封相願ハとハ又致移封ハ口口其地名を致遺忘候数年後仙臺洋中ニ条以小舟蕩ニ窮谷ハ伯氏を迎取本土へ退申ハ説話有之右之故と両人男子を生當年何才ニ成ハ話し有之ハ由不自由之品ハ多々ハ得共大根ハ一切不生の間年ニ澤庵を幾樽も洋中ニ於て交易致度旨相願別ニ其後年々交易致候ハ所風潤相立ハ従蕩ハ戻之禁示後音信相絶ハ由其絶奇ニ談歸途足代氏ニ投好奇之人物ハ間右之由咄傳ハ所世没ハ不可有之事ニ申越ふを意ハ様子和見ハ後足代氏と訪ハ節先方右之支申出不可疑を疑ハ由只今仙臺ニ蕩士致寓宿ハ是ハ哉ニ可申由ニて有ハも影ハ様略ハ前条之通ニ座候當初ハ魯西亜中ニ存ハ旦地名を忘ハまハ支甚残念ニ座候ハ三宅蕩殿ハ鈴木春山之話大東ニ鴻ニ有之ハ節ニ従海外一方援兵差出候ハ様ニ仙書ニ出ハ有之ハ右ニ有ハ多分忠助俄ニ申事ハ一旦仙臺洋中ニ舩来之節ニ説話有洩ハ事ニ

十月二日立藏書閣之中

三四日前伊能三造と申歌人万次郎ニ影ハ琉球ニ産之者之由申傳ハ之話ハ産ハ

皇金陵先生　谷干城　芳野立藏　世ニ所ニ在ハ果ニ人

一月不得手書如三歳。先生。近伊勢。寓足代氏數日。一日與數輩共觀古画圖。中有坤輿圖焉。州人通地學者在坐。展圖指一處。示曰。此是角利伏爾泥亞國。仙臺人金忠助入王之地也。走始聞斯

熊澤惟興　田中藩　俗稱太郎

走往歳西上抵為如何。

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

話驚嘆曰。殆似我州山田長政。請聞其詳。彼欷然曰。忠助善刀法。仕松前。文化丁卯賊虜福矢多富寇北邊。携眷亡入海。由加模沙都加。抵魯西亞新都伯德琭毘爾孤。終掾有斯土。忠助時年十九。屈指今既六十九。非所謂乱世之英雄治世之奸賊者耶。偶仙臺人十文字龍助亦寓足代氏。因又証之。惜哉其時蒼皇。不詳角利伏爾泥亞。在何州中。歸藩之後。就圖探之不得其地。欲徵之書。未着及其事實者。蓄疑久矣。頃日得華盛頓美辣連呈大府書翰閱之。內開。若坐火輪舩。離加理科哺亞省。駛過平海。十八晝夜。能到貴國之口岸也。又云加理科哺亞是大邦也。土產多。每年出黃金若干。走讀

至于此。不覺拍案曰。是蓋忠助入據之地也。案此州至數千年之今始開之。而少人民多曠土。非如亜細亜歐邏巴二州與天地共開各域有主。豈金氏以武畏之。以智懷之。啓封疆教耕牧。以王於此歟。亦後世英雄也。於是蓄疑氷釋。歎其偉略。再把書簡審閱。彼知我皇國故事物産。詳於

皇國尋常人。且立年記。此西洋違一月。正與

皇國同。因疑雖未詳其生卒。彼或教美辣連開此鮮端。亦未不可知也。若夫然則忠助奥

皇國之姦賊。而北長政雖富貴。常懷桑梓不置。獻扁額於淺間祠以報賽。屢牒執政。納方物于大府。不失恭順之意。豈啻天淵矣。東都人傑奇書之府。必有詳記渠

履歷始末。及起訖說。憂慮國家事務及之者焉。伏請先生為走質之。亦是方今廟算之一助也惟時蟄蟀在宇。爲道自重。即月二十七日

金忠助

海城寒柝月生潮。波際連檣影動搖。從是二十三百里。北辰星外立銅標。

大槻清崇

獻芹微衷稿成之後書懷八首　松本胤親　稱斗機藏

誰言廟堂籌策長而今勿說海涯防不憂家事憂王事欲獻悵中馭虜方犬羊併吞半地球全皇如織掠皇州廟堂肉食深謀熟更把吾濟爲杞憂

俄羅斯與英機黎巨舶横行四大洲封事如今持欲上愚衷切爲國家憂緣邊精嚴西戎備狼子方知有野心休笑婆之無恤緯書生措大過憂深蠻舶來去知窺我知是西洋豺帛驕願達獻芹憂國意海氣清乃虜未朝

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

豪傑豈耳安煖飽寸喪憂國愧庸才赤貧全被讀書崇
多病常因防思耒
生不逢時奈數奇行藏竊與古人期休笑碌々無峻節
耒有歳寒松柏知
渇耳鮮血飢耳肉烈士本來不顧家何況閨房床上臥
在兒女子手中耶

隣疝聽議

屠龍居士稿

水府老公之間出ら人傑ヨ㠯ま手ろ其ハ吾も人も知りゐるまて今更喋々
云爲をよつ〳〵そハ労茗しゐる諸君をはじめ藤田某が常陸帶刀をと
熟観そろる其識見卓絶明快西山公ヨ比ら論ろるといふべく豫ら
天朝を崇ひゐる皇天の如く西洋の醜虜を悔ろゐるの豺狼ヨ異なる
さるハ世の庸輩之會セさる許ら㠯て誠ヨ瞿眼如炬ヨ㠯ま㠯も愚なれ
ゐ喬木風ヨ折れ盛名ハ世ヽ蔽まろ〳〵ろるひまやろけん公其志業を遂を労
多ハす天保甲辰の年遽ヨ幽扉ヨ入ろ〳〵しかハ天下有志の士々海上ヨ舵を
失ろ心地ヿて余が如き掌庵の腐儒迄も屋を仰て大息し落涙襟を露
ゐるを怨ろヨ労茲癸丑の六月墨夷の軍艦浦賀ヨ来りて叩り強請

ある所ゟ回明春も又事ん〻と去しゟ人心恟々として安ゟきりしゟ
官ゟ公ゟ命つゝて公遂ゟ登　営せられ日ゝ防虜之議　参預しゟゑ
聞侍ふこゝ天地神明公ノ誠忠を鑒ゝて往年の寃を雪きゟゟる事
天下人心公ゟ依頼して稍ゝ鎮静せし所つゟゟ實ゟ宗社の大幸といふのみならず
宣を得ゟゟを見ゝ肯綮ゟ矣ゝるのみならず朝ゟの意委ゟり
吾秋之法責備賢者といへ今竊ゟ余疑ふ所を陳列して　君を知友の識
者ゟ問ふ所ノ醜虜浦賀ゟ来りて軽蔑侮慢の状を逞して都下近騒
擾したり時義勇の士を切歯して公ゟ事を靳むりくわゐ醜態ゟよも
つゝし今日　皇國の威稜を張ゝ外夷を懾怍せんものゝ公ゟを
除て其人ゟゟゝど我もいと云合ゟ醜虜ゟ怙然として退帆せゝ志士ゟ

益憤慨して妄賊を鏖ゟせゟるの恨つゟ斯て七月四日之頃公再ひ出
ひ登ゝ　営つゝと写ゟ及て吾徒ゟ愁眉を一時ゟ開きたゝ殲寇の
令下りて神州之義氣ゟ勃興せ百し禽獣ゟ均しき蘭學者國賊を害
ゟる西洋説ゟ必ゟ弥ゝゟ禁せられて日本竟ゟ復ゟ百ゝ夜それを樂しゝつ
大旱の雲霓をのそむゟ如くかゝつを呑て待ゟりしゟ徒然として事ゟさゝへ
ゟ今日ゟ及ひぬるゟゝ抑いつゟるゟゟや古より英傑の事を妄ゟるゟ必機會ゟ投
ゟるゟまて其汲合をづゝとふとの間ゟ髪を容れざれゟ昧者ゟ得て與ゟれ
説て國勢の振ゟゝとふ士氣の起ふぬといふ類ゟ皆其機會を知ゟゟる故ゟ天
下ゟを紛ゟ得ゟるとの雅活眼の人つるのゝ聖人のゟゟゝ所ゟいふゝ及ゟぬ
ゟゟれゟ武王の高ゟ克りや否や箕子の囚をゟゟゝ比干の墓を封し
商容之閭ゟ式し廩臺之財を散し鉅橋之粟を發ゟるゟゝ少しゟ猶豫

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

ゟる所ゟ回明春も又来ん〻と去しゟ人心恟々として安ふ〻きゟしゟ
官ゟ公ゟ命ゟて公逐ゟ登　営せ〻れ日ゟ防虜之議　参預しゟゟゟゑ
関係ゟこゝ天地神明公ノ誠忠を鑒ゟて往年の寃を雪きゟゟゟゟ
天下人心公ゟ依頼して稍〻鎮静せし所ゟつゟゟ實ゟ宗社の大幸といふへきのみ
さ夫ゟり以来百有餘旬来ゟ並て一念乃愉快なるをきゟす未ゟ曾て一策の機
宜を得ゟゟを見ゟ着し肯綮ゟ矣へるのみならゟゟ鄙ゟゟの意委ゟり
吾秋之法責備賢者といへゝ今霸ゟ余鋭ふ所を優劣して愚を知友の識
者ゟ問ふ所し初ノ醜虜浦賀ゟ来りて軽蔑侮慢の状を逞して都下を騒
擾したる一時義勇の士を切歯して公ゟ事を執ゟり扶ゟ醜慾ゟよも
つゝし今日　皇國の威稜を張ゟ外夷を懲懾せしめんとの公と
除て其人有ゟゟど我もゝと云合ゟ醜虜を怙然として退帆せゟゝ志士を
益憤慨して奚賊を鑒ゟせをるの恨ゟり斯て七月四日之頃公再ひ出ゟ
ひ登　営ゟり〻ゟ多ゟ及て吾徒ゝ愁眉を一時ゟ開きたゝ殲夷の
令下りて神州之義氣ゝ勃興せ百し禽獣ゟ均〻き蘭學者國賊を害
せる西洋説ゝ必ゟみやゟゟ禁せられて日本竈ゝ復せ百〻と日夜それを樂〻つゝ
大旱の雲霓をのそむゟ如〻かゟづゟを呑て待ゟり〻ゟ徒然として女事をさへ
せ今日ゟ及ひぬるゝ抑いゟゟるゟゟや古より英傑の事を変せるゟ必機會ゟ投
せるゟまて其汲合そづゝとゟの間ゟ髪を容れをれゝ昧者ゝ得て與ゟ
説て國勢の振ひたゝとゟ士氣の起ふぬといふ類ゝ皆其機會を知ゟせる故ゟ天
下を紛ゟ得るとゟの〻雅活眼の人ゟるのみ聖人のせゟゟ所ゝいゟゟも及ゝぬ
ゟゟれゟ武王の商ゟ克りや否や箕子の囚をゟゟひ比干の墓を封し
商容之閭ゟ(式し)盧臺之財を散し鉅橋之粟を發せるなと少〻も猶豫

狐疑ある故今まで塗炭に座せる者を驟に安樂ならしむる物事
一際目を立て民の感激を格別ならしめ萬姓悦服をいへ至尊人を天理
のまゝに斯せられ民心を得ん為めに計較心のつゝまぬ〳〵ねとせざる
るの汚名につゝまるゝは是其聖なる所以之然るに同しるゝ一年を経て箕
子を釋し三年を經て後比干が墓ヲ封ぜられ金〳〵そつゝ抜ゝまりて
為せ所に異あらされとゝの心魂よりは透徹ぬる其他漢の高祖なども
妻敬が説をきゝや否や即日に駕を出して終日に関中に移られるゝ機
會に乗れるといふまでそれを一両年見合せんの明年のまでせんなど、
いそ〳〵終身遷都を得ざるまでなり淳歯関王を弑したる時王孫雪帝
中に入て市人を驅りて復讐せしも淳歯が栽逆のまをきゝそれ憎き賊臣
なれと衆人の怨ある所の氣先に乗じて謀〳〵容易に誅しまりて
又豈機會に投せ〳〵故あらんや其手おくれなればやがてをつゐに抜け
果て関王もかゝる名道のるの有し淳歯ともかいる道理のるを有
くるまの有まに至るまで始め憎〳〵と思へるとのを左程まで思そなりて使撃の
功を得んる難し此類和漢に多き支當成敗の係る所國運命脈の関
る所極めて急ならせざれやるまで号を知るを英傑と称し是を知るを
を暗愚といふそれ今般の防虜の義をも余が上書案を論せ〳〵如く初め
戎狄の軽侮を受て暫抜武士が怙〳〵置首を義氣あるの市井の庶民まで
迫り扼腕切歯憤慨まるゝ切と憤ら奴原が形何として彼れを誅せざるや
期せずして思へるれば其ほとをりのため早速に令を下して明春を
又俟一まりて不逞の挙動あるまでは殲滅せよとの上意なれば
皆其旨を心得て國の威武を張白玉し聽せし行あるるれと新勢

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

ると命せんよ士氣ハ一時ニ鼓動して一人も私議をゝすものあ
咸靈ニ聾服して人皆必死の心を決し
明るかゝれハ器械の世話をせゞる多人ニ實用の器を製し武備のるゝを今せ
ほを自然ニ兵をも練ニ至し淫靡をやめ
ゞれハ誠ニ國脉を振起して威稜を張るの機會ニつゝしめ
れて廟謨ニ參預してハ人心を攻ニ至るの今ハ下ニす徒ニ武備を嚴ニ
老公ニ乍ら豈禽獸と通交して國を辱しめもるの挙なからんやと云ふ
せよと云ふ儉素の風を守れと云ふ或ハ鼻の先ニ礮臺を築ニ或ハ巨多ニて大熕を
鑄造せるゝと絶て標末のるのゝまて根抵頭脳ニ曖昧なれハ戰ふるニ和するも
ゝ人皆適從ニ迷ひ果て廿止ニする所を知らず義勇の心乃在せるゝものハ廟堂
士躰吏ニ國の賊ニある蘭學者ハ通商交易を許もしんとて今の時勢を知れる

るれハ廟議ニ必それるゝ所ニて紛々然と云噪ニて人心の多ニ列ニ甚ニ
藩の武備ニ於るも遽ニ敵甲を購求して裝飾のみをハ表面ニ巨万の
財を糜敝して銃礮彈藥を收藏ニも其實心を詰問されハ血戰せんと
の念ニある〳〵太率外見を衒燿して人口を塞らんと欲ニゝる過ニるの
ハ〳〵て根抵立ニゝ致何程器械ニ富ニ至共大礮巨熕ハ多〳〵つゝ共
豈ニ使用ニゝる人ハといゝハ舊ニ仍て膽氣張て没心覺悟といふ
なれハ一旦緩急の時ニ臨んて甲をもとり礮をもふニ至ニて捨て首をかへて
走ニんる火を觀るよりも明ニ是豈活眼を具せるゝもの得て感服ゝる
處置ニゝんやされ共計筭の有司ニあるゝもの平生負ニ備ハる近ニて眼光
豈の如きニとのゝ先後本末の辨をも知ニゝす一大機會ニ氣の附ゐも
固よりニゝる多ニゝるゝなれを獨老公ニ至ては知りなをるゝ

其ハ常陸帯公の平生の説を載て北條氏ハ蒙古の使を斬り　火獣公の異船を焼人を磔ニなるハ皆我國の人の覚悟を定めもる所以ニて人ニ覚悟定りなれハ武備整ハさるものとても敵を防ぐニなれりといふれハ公の兵機を約るなるこゝろなれハ殲滅の令を下して人心の覚悟を定め必死の一路ニ入ニゑハ義士の感激ハ固よりて聴病者も蘭学者も義ニ通りて逃避しつゝあるニ魂膽今ニも渡来して軽侮の状態ニなんまいて釁衅ニて根抵ハ急ニ究しかく根抵を一掃せんと気鋭一時ニ勃興して立ちれハたゝ器械ハ望ニあらず大礮巨熕ハ今ニ多人心一致の力を以ニ賊を挫するニなれり況て根抵を定めて後兵器操練の事及ひ外見の為ニ脆器を購ひ筆法ニ泥める練兵ニゑ努ひ自然ニ廃絶して允経畫處置ニる所實心上より發ニ至れハ洵ニ愉快の挙ニあらずや公能此理を知りなひて其論如前ニるニ廟庭の議ニ臨むニ及んて先此一着を建言ニて標末のニを逐逓ニて日今第一の本を立ニ機會を失ハんとニゑハ公豈別ニ神等ニるニ抑傍観ニハ明ニるニ一旦其局ニ當ニハ迷ニを生しニくニるニや予ハ疑乃治清ニ難ニ是を第一とれ且當今之人情ニ因循苟且ニ慣熟ニて表膚を飾ニ長ニるれハ武備乃官命布ニしより義を恥をも不知ニのも由ニ器械を整頓ニて揚々然と人ニ對ニ魂膽殲滅の令ニハ戦ニ至ニるニのつゝさを其心をさくニ萬の一ニも戦闘の令ニハつゝニと安心ニて狡ニて誇大の言を吐て妄ニ人を瞞ニるれハ剛聽勇怯混淆ニて遽ニ真偽を分ち難し然ニ

明春戦闘せよ〳〵明らか〳〵今しばらくそれらの者とも膝を交して顔色青さめ手足顫へ其真相を暴露して王石遂に掩ふ能はざるに至らん大石良雄が義挙を図るや先嬰城の徒を説き衆士の心を堅金察せしめ善く其術を用ひて有用無用の人を分ち壮士悍夫を厚くして氣節を作興するの法誠に是ありよく戦闘の令今日下るに及ず義勇の士よく力を落さず而して氣と吐せて時日を消過せるに於ては公の心如何ぞや豈公の見る所一の良雄と如きを又大に怒るの色なきの理あらんや近世行はるゝ西洋の学といふもの、邪説妖妄の極にして其説天下に盛んなれば隠々として社稷の命脈を壊り大道を蠹蝕せらるゝに至る共西洋学の洪害有る所以は余闢邪小言を著して詳に論弁せり請ふ之を観て其毒の甚深きを悟らず相率ひて昏迷して禽獣の群に陥るに至りては然り独老公に至りては卓然として惑ひなき深く其害を憎みありて往年位に在せし頃世の洋学を禁絶して蘭書を焚棄その学を建議せられしことも亦聞き及べり東照大猷二公の遺志を継ぎ世に行はるゝ蘭学の弊をも未前に防ぐの良法ならずや竊に我君数々仰ぐべきこと是なれば其識見の徹せらるゝ世の侯伯儒生の類の萬々企及ふべきにあらざれば余嘗て竊に謂らく公若廟謨に参せざれば洋学を禁遏して先蕭墻の夷狄を攘ひ神州の元氣を護せらるゝこと無きに幾し老公出でざれば上官の令行はるゝ亦多きを果して是何ぞ氣談を弄して茲蔓せしむるに至らんや

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

又先砲臺を多く築きて居れるら敵を討んと欲し（砲臺のことを特に詳かにせり或ハ各藩より令を下して西洋砲を學べとも云或ハ盬舉（アンパルト）児多の兵を唱て

神州の士氣を壞りある高嶋某を獄より出して其事を管せしむるやう

総て邪説を熾んにして夷狄と剸致をなすのみなるを駭くべく歎そでし

たる幕度の百官有司西洋の邪説を瞞昧やすれてさるをとんと手

を束ぬの門望學かまて其蔽惑を辨辯し大義を諭すなんる何の難

き所ならんかくてハ其議行ハれて獨邪説と黨するもの神

逐んと欲せハ公を義をもて進退して可るう苟も然能ハ

州の矩矱を守る所を天下よ示すものなり

公も又依違含糊して西洋の邪説の盛るるを手を袖にして坐視も

されハ前日の確言正議ハ全く虚妄よなるうそて斧鉞を恐れをる

端人義士堂孤ん筆を提けて公を特操あるとも云誤國の罪人歸せんと

もする公其分説を得ざる至るなるそも

されハ世間の俗輩を公をも已れの徒とうして或ハ公の真心も通高を許せ

ることも云或ハ権りよ交和て武備を厚くするつとろうの麾下の壮士

某予が宅よきて公の英明快豁なるかるるる公常よ對て東照大神君

為るる公の舊典を守るめ〳〵夷狄を近つくるずよ近づきて夷狄なるを覚ざる交易

て國域を海外よ耀せんとへ夷狄なるを覚ざる交易

ると雖そ下も上も諸共よ大和魂を磨きて天下の蒼

生一人も残らず失ふる迫ハ皇國の地を夷人よ踏せ〳〵思ひ定

めて死よ角萬人心を一つよ力を合せて防禦そ盡しと朝夕よ宣〳〵

る由當侭帶の中よ見西又通商の説を辨して交易と
ハ是も彼を取ってて互よ利なれハ
る〳〵彼國々〳〵舶載来るハ多〳〵皆無用の品ゟ阿蘭一國と交易
そ〳〵識者ハ患ゟ所ゟる内よハ諸蛮を引入れて外よ出て交
易せハ心夷狄の風よ移されて大害と
交易して其隙ゟ武備を整へんといふ如きハ聽病者の口実よて我一
代よ事なれと願ゟ情ゟ出ゟる説ゟ実狄と近ゟ交易せんよハ人心
愈弛ていつそ武備の整ゟ多ゟをゝと宣てゟる見てゝれハ公の義勇の盛
んよて國の大體を知りそゟる〳〵竟聾も同然よそゟるゟゟて只唇〳〵そ
覚ゟるゟゟを庸流俗輩の公をも計筭の人として交和ゟ意なゟゟと
いふ如きハ小人の心を以君子の腹を図るまゝて論辨よそゟる
も似ゟれと公ゟ孰て是を云ハかゝるゟゟて
ゟるゟゟて〳〵そゝハ前ゟも論せ〳〵如く防虜の爲ゟ幕言を奉て特
登 営一タゟゟれハ大根本大頭脳ハ力を窮めて建言一而官有司
を喚醒して幕府の威稜を興復し戎狄ハゟる及ハ諸藩の心
を諫伏して早く侮を禦ゟ爲し或ハ其云行れそして撃射阻抑
の者のゟゟを亦唯潜龍を耳んして別ゟ経畫せゟる爲ゟの〳〵然
ゟる老公出ゟて〳〵ゟ而有餘句の今日迫一令の公乃特論も籌せ
ゟるを聞を一挙の公の英器よ似ゟ〳〵ゟるを見て有司の措置ゟる
所よ鋒漏補苴の事のゟゟれハ巌穴の士の公を信して謀亀の如くよ
思へる者よ疑心忽沸騰して公豈幽屏の久ゟより吹蠹の畏心なゟゟら
然ゟんハ何を以其失着を黙視して救済一ゟゟゟと信難

胸中之鬱乱して断ゆる所を知らざれば況や緑々たる虜輩の
公の人となりを知るに意ありと雖も深く怪しむべきを
もてこそ早く大義を主張せられ満朝
の憤矢を壁倒して我神明の邦域を異類と汚さゞる旨を明ら
かに天下に今て孺士の口を閉封し義士の疑団を解ざるべからず
事となりなば 東照 大猷二公の霊もれ天に在て喜ひ給ん
抑今般の一挙たるや神州栄辱の係る所只戦と
和の二つなのれど極めて困難なる漢の竇錯呉王濞
の前るを論じて前之亦及ざる亜禍小不前及遅禍大ト云る
るつもの醜虜を於るや如きも勢ひ頗る相類して戦闘を主とそ
る時を禍速ても却るべき一度通商を允准されば禍緩て

却る大なり其いふる事といふるも
通交を許さゞれば或ハ憤志して域を
出ざる嚇せばそ神州の人志を一にして力を合せ防戦せば再三来る
共何のおそるゝ事かあらん（我狄怒て戦闘を思ふ只没心処置の如何にある耳其論長けれど茲に
贅せず）かくて国域を照耀して夷蛮を震慄せしもつる寛永の
しるし如くなるべく永く彼の覬覦を絶て宗社泰山の安きに比べ
し是其禍速くして却ていよ〳〵深きを知べし（愈此儒夫不識虜情之言也虜犬羊耳震之以威則懼而奔示之以怯則驕而至
昔呼韓之朝不在於金繒和親之日而在於衛霍分道之餘瘡痍之迫不在於韓
酋既復之時而在於史寶南寇之後故嘗謂行成春秋所貴也而宋始終以和誤
国由来不知虜情耳啓釁開戎機亦由今人不知虜情耳）
我起釁則可已釁我不起釁則恒釁今人不以起釁求已釁而以不起釁求已釁
故釁卒不可已也ト言タル、恰確至當ノ論ナリ在上ノ者宜服膺スヘシ（明ノ労堪カ論ニ人或謂ノ労堪カ論ニ人或結怨於虜則儻ニ我
無くして戦闘の危艱を憚り一時の苟安のみを図りて彼の請を

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

所を許さゝるに是其凌侮ると長伏して勝を豺狼と爲さゝるの
神州の面目安んぞ在やかゝるて親交の深きに從へ彼隠々と毒を流し
て利をまて愚民の心を結ひ要ると妖教をまて導くに次第と昵懇る
浸淫して終ると如何ともすべからざるに而して百年の後と及ひるに祇神明の
邪域と変して被髪左衽とならて周礼の道を廃却して邪蘇を奉ぜ
るもまさるん是其禍緩ひて及て大るる所以まなり魏虜の人の
國を奪ふ當て其効を旦夕と求めん先緩々毒を流して浜て通商を許の説を
暗に人心を移そうに余の闢邪小言及ひ上書案等と詳り
其本怯慮に發さゝるの故醜虜に欲ると所を得て日下と外患るもも
内々落鎮の軽侮を改て承服せざるまるるに又是大事といふまでして系
ず一時と倫安して彼の攻戦を免れ得るも我落鎮と軽侮せられて統馭の権
を失ふと一時血戦勇闘て大義と明るて恥ると辱を

周礼恐固孔

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

ふるゝ因テをふる忌諱を犯して犯愚之忌愛を條陳そるゝ是を是眼の識有る賢にて余の惑ひを解んと欲そるのゝ豈敢て賢者を譏て許以為直を好むといふんや韓昌黎いへるゝ盡言於亂國是以見殺傳曰惟善人能受盡言謂其聞而能改之也と余ゝ今日の論そる所國武子の轍を履て誅せるゝるを求るゝの柳又善人を得て其盡言を受るを欲そるゝる識者幸ゝ之を裁して可れり

嘉永六年龍集癸丑陽月下浣

本編作者屠龍居士通稱大橋順藏著也江都人林氏學頭川田八之助之女婿而長漢學好議論云

卜言神議

屠龍居士著

焼亀居士著

屠龍居士の隣痴臆議と題そるゝものゝ水府前の良公明敏ゝ世の人よく知る所ゝる過つる頃ゝ登営有て異國攘防禦のゝを台命蒙らせゝるゝ就て忠世挙て安佚の情を起し士氣自然ゝ振ひそるといふゝ我身を忘れてかゝ乃公ゝ役せられん事を願ふ勇士の情日ゝ新ゝ月ゝゝ壮んそるゝるそるゝも當(寅)の三月上旬ゝ彼異賊ゝ薪水ゝ關之の品以來可被下御取扱ゝ極りゝゝ依て勇士ゝ李意ゟゝ思ふ所智士の煩ふ處ゝ素ゝ天地懸隔の相違と思ふ故ゝ屠龍居士演説の評議ゝ奥齒ゝ物の撰りたる意味ゝ其謂れなきゝゝ共五ゝ子の評議ゝ得

失利害を分明ならざる説あるが如何とも勇士の徒ハきそて感称せ
ざるを退て又時世の有様を考合されバ去る丑年初秋諸侯太夫士庶
人の類迄異國船防禦の一条就ても所存を不漏奉言上の旨　台命降て言
上ハ及ひし趣意を中〻見聞届かたく慶あれハ其奇謀妙算ハ暫く置
先以十七國主の大家より上ハ下つかた風説をそこ〻に而三年も争論
を不開始終有様ハ乍其内ニ武備御整ひ乃御計策ハ御ふ〻から
亀を焼て良公の思召を布卜曰夫水府前良公ニ於ハや三公ニ准し給ふ
天下の御連子ニ而ハ臣の道を以忠孝を全ふし給ふの事ハ世人の知所ニ
て

近年迩数ヶ年の御退隠中一室の内ニ在て其忠烈孝貞天下の耳目ニ
香しき故ニや御誠心神ニ通し再ひ登　営の恐悦ニ遇給ふあるを聞及
ニ有志の徒ハいふもさらなり地下人女子のたゝひやて異國船侵来の懼
を忘るゝ迄ニ士風いよ〻ふるひ奮ひ天下の人心和同一致の勇壮
既ニ見ゆる事ハ実ニ　神國の餘風今又新ニ飜るゝやうニ而魂ひ
未たのそ〻ゝ見ゆる折柄一先平穏の姿をなしより賢愚一統不審の
情を発ら今日とゝ考ふしく人〻ゝ紛ら敷當三月上旬登　営の頃良公
屡天下の安危をさそ〻御談説ありしを誰も口ゝゝ云出ゝ私
と世の風情ハもとゝし程の変られハ何故ニ御雅厚ゆ名請ゝ給ふ
御由断ハ不ゝるゝ等形ハ大ニ其子細を申ニハ天下の政所ハ正敷
台命の出る慶ゝゝ就ゝ水府良公の御口添ニ即政所ゝゝん為ら

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

八　神州の御國體を損ふ大患あれば其脉絡貫通利害を御諭說ありた
志ありて良公の御意念を主かいんとありまく天下の爲といへ共いまく一度も兵機
を動さゝる砌あれば御心外のてまりをも一旦は衆議を任せらるゝ深慮
御忠誠のまゝと奉感称ありまく如何ぞや堂又今爭端を開く時を向
後の憂ひ薄く今又平穏を主とて爭戰を後とするが如き後乃憂ひ
益く深かんと思ふれく支和戰の二字十ヶ條の御詮論執政方まて
被仰諭しより儕ら尚く切望を見れば良公の思召は甚御不同意の和
議を極ろうる迄良公の御耳よへ和議の文不ヲと見ろ四方八方和
議の調畧商て後水府良公御家紀、相成ゐ故天下の人嬉ふ和議ゝれ
ろまてなるべん嗚呼其時、當て良公御一人深殿、おゐての御都
合誰ゝ知るものなんなれ大患憤怨の御意念素より當然の至故

有志の徒ゝ挙を握て呑息してゐまく良公の御様子を窺ふとゝ三月
十日の御帰殿夜ろ入しより耳閉戸て其他支絶て風喘ゝも不出故良公乃思召
ハまく御安否も難計穏ふれハ不審ろて人ゐるを實ゝ或又不自者
抔ゝ水府老公ろ闘戰而已好とろ自己の邪道を設ゐろ事し彼是天下の
大事ハ内外を深く御勘考ありて當時ろ眠ろせまくが如く誓ふる
御參、當於ゝ御心中ハ古今稀代の御忠誠と奉恐察之故又前文ゝ申通十
七國主の上書ゝ武備御整迄両三年の間ハ何ろ平穏の御取扱ひ
可然哉の意念を專要ろ含そろる上書之趣聞召ハ良公も執政方も
免角大諸侯方一統の存意ハ實く拾ろありられゐろ故ゝ一旦ハ
衆談を以ろて亦和同一致の御遠畧ろなるべし且又
御ろ乱ゝ移る間際ゝ於て水府良公の思召ハ戰を先ろるゝ利

あるの御明察向日の如くあれハ衆議ま異ふ改を以の御逐慮まハ有間敷ニ不及豈非無御擾御次第を醸言申をハ横死のとの有之時親類密談ニ而先以死人ハ寺へ送納て後主君ニ急病差重りと届跡相続願済又成て後又病死届をするハ類の如しし其類例を意永の仁政とよのまて天下国家永続をするハ心法之書曰賢人之政降人以體聖人之政降人以心體降可以圖始心降可以保終ト云云是を以勘考熟慮ニ而ハ哀公のち名をのこされ寛仁大度の旨を奉感拝之且又良公の御心底を奉恐察所能ニ事を忍ひ御誠忠の根本るをも予ハ窺ふ所を以譬ハれハ諸葛武侯の誠忠ニも劣らぬ男良公と思よるる屠龍君ニ降而聴議を聞て其人物を窓そる素性清白まて又文学ま秀長るニ鬼ま鉄棒持せ一大丈夫と見へるる當世の稀との

るニ劣し外ニハ勢州の名士斎藤某ニ士道要論ま述るる所の覚悟ハ一世の俊傑と見てるる或ハ又千代田問答を著しるるハ豈有るる人やん離倫の英物天眼通を得るるといるし天下の名ハ身命を不顧猛意英才筆さ走るぐ〳〵ハ方ま當て突破ま働さるれハ其身ハ席上ま九天九地を翱翔ま有名古今獨歩の豪傑荷ニも左そ恐悼の礼るく後愛を不顧とのそ玉をしるて閑ま瞬ニ如し名士程樂の人まて生深く懊ま尽ること況君在のくるおのそや切又屠龍君の西洋学を忌多の細説ニ中見の如きハ實ま述盡せる言哉天下の御覚悟ニも可成正説高論之ニハ又馬ニ塵芥の問ま接望ま有賤夫まて世の動静ハきるこ一己の浮沈ま忘ニ多無学文盲の身ニ有れと十有餘年以前乙卯年五月の頃天地人ニ顕れるると以てかくれる浅

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

占ふ未来の細説を書て平旦獨語と表題して僭まゐらする所ゝ
ゝ今其言葉をゐて當世の成行を見れハ毛厘も違ふ故自ら驚
く程の暗合之夫ゟ以来益天変地妖人事の災害日ゝ増年ゝ至り前代
未曾有の夥多ゟ打つゞきゟゝ雖救撃支之然れ共天道を恐れ慎む人君
稀成る世の中ゟ水府前の良公其(徳)慎深ゟ支堅言ゟゝたゞ子當寅
の三月中旬よりゟ良公の御心中奉推量子細ゟ附て落涙ハ更ゟ飲食を
忘れ匆々を送ゟ所急度思案を定めハ嗚呼かの良公御身の上無御別
條ハ天下の時勢一旦水火の中ゟ溺集ゟゝ再ひ海世の御遠慮ゟん
ハゟゝと憤然ゟ覚悟を極め良公の特安否を窺ひ奉らんと粉
骨砕身の思ひゟ数日を送ゟ一ゟ當申四月下旬ゟゟて初めて良公御
安楽の體を承り得ゟ安堵の大悦ゟ崔躍して暫手扱引兼ゟゟ

屠龍居士の如く降病病ゟ頭痛難忍ゟゟしが今度の方海世丸と云奇
薬を思ひ出一服を出ゟゟ兼ゟの持病ゟ忽ち治ゟゟ上
ゟ病後の補養專要ゟめいゟゝ氣養ゟ順故そハといゟ侍ゟ
遠ゟゟゟし夫迄ハ大切ゟ身をゟゟて居ゟゟ上策ゟゟん何程善
ゟゟゟ迄変を知ゟゟゟ云ゟ時ゟゟ節ゟありまゟゟの時ハ
亡ゟ元服の友角ゟゟゟし
皇國守護の人傑類を以警ゟ應ゟゟゟ者ハ名世の玉ゟ皆以て布ト
神議の降所如斯予ハ素ゟ腹ハ空腹ゟて長道中ハ堺明ゟ筆紙
の上の御同通ゟゟゟて御別れ中之頓て馳會面の時ゟゟハ猶可為
李懐ゟ謹言

水府前良公を讃一奉ゟ述懐の吟一首

かくれても玉とやつさん天の下言の葉草の露ひろひて

嘉永甲寅年中秋望

藤原重俊

焼亀居士藤原重俊者江戸日平橋外浪士通称永井忠左衛門今茲
安政癸丑己六十九歳究兵學達礮術門人多于諸藩西洋學
著平旦獨語二巻嘗水府老公以録三百石招辞不應云

擬諭文稿

山寺信龍撰

擬諭亞墨利加合衆國大統領使節彼理文

貴國大統領殿下曾て久〳〵我國と和好を結び加理科咻亜者と通商を聞るを両國
必らず大なる益あること知得んと思欲ー玉ふ為み愛み故ら使節を發ー玉
来諭ー玉ふ所其深く切なるの至りハ我国主も於ても深く感ー思しる所あり
然るに我國昔ー より海外の国と通信そるこ〳〵みなうらぬといふとも事便
宜よろしきが故る嚴禁を設けて都て我國の船海外の國々へ至る事を禁し
又海外の国の船と我海港へ入る事を許さず只通信ハ朝鮮琉球み限り通
高ハ支那和蘭み限る是も亦互市の利を必とそるよりあらず受け来る事久ー
く素より其謂あるをいてゐり其他濫りな通信通商そる事るー仍て今

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

貴國大統領殿下来諭一玉ふ所時勢ありて國法を変易せるの處置あるべしと思
召されし旦々 貴國新製火輪船をもて航海をき六十八晝夜にて我海口を
さへき所の正對近隣の國なるをいて自今已後互に親睦し交易を開き兩國大
益のらんと来諭一玉ふ所如何ぞも其理あるへき事なきに更る萬々商量
れへき所あり然るに兩國其地乃相去ること數千里なるをもて其風俗制度を於
り原自ら同しからさるものあり抑通商の如きハ彼我の有無を交易して各其
利有るを以てなりといへども通して是を論すれハ海外無益の貨を以て我國有
用の物を失ふことハ國計の善からさるものあらん又輕傔の民奸猾の商徒ら
に物を競ひ價を爭ひ只利是を謀りて厥くことを知らさるに至らん故に汲々
ら新を好むハ民庶の通情にして國を治るものハ通患とするところなりて民
りて民政妨ふる害有らんことを其恐をなしといへども其深く取

らさる所の珠と我国ハ地境廣からずして人民衆多なれハ年々國地も生する
所の物産其用る所よあり称ふ次第をもて昔ゟ文籍藥品の外ハ猥りに
外国の物を用ることを禁せり又其言語文字を異にする譯を重ねて強て
通辨せんことを汲求むることも其情實の底蘊を貫通することを能ハさるに
言語文字の間ゟ於て若其礼敬を失誤そることあらんことを汲恐る且礼ハ往来を
尚ふ来りて往ふ為も亦礼ゟ非ら次我國元ゟ航海の術ゟ踈なれ是を能く
貴国ゟ使節を發して答謝をることを能ハさる旨ハ前諭を海外ゟ修むることを汲知らさる
ものあらされとも其風土の異なりて事情ゟ於ても又必次懽心を得へき次ハ
つらい行事を煩さんよりハ寧ろ絶て通信せさるの優なるまたハ
是我國歴世封疆汲守るの常法也是を以て今さら、ゆるかせに變易し難き
所のものあり此故ゟ遠ゟ来諭ありし但我国海岸ゟ寄り

来る　貴国漂流の難民を撫恤せん事を来諭ー玉ふ所其深仁無量の意我國
朝廷歴世の意なりて亦同ー〳〵然り我國四海と鎖鑰ーて天然の區別と固守そなと
いへともかゝる漂民の危難ある時なお天意に体ーてこれを撫恤する仁意の według
り邊海を漂民ある時々其通不通の國を拘らず其程々を従ひ厚ー撫恤を
加へて紅毛舩をーて各其本国を送り還さしむると令條ありて四邊の津々
浦々まで示置る然るを是も亦其国俗の異かーて言語文字の通せさるより互に
情意を達せ或ハ相仇とも相怨もるなきを保ること能ハす今已後
猶更ら前令を申さねて寧ろ告諭あーて彌更ら仁意を貫そへきことなり
仍て、貴國の民も亦能くこれを會得ーて穏なく撫恤を受け又勿論漂流の
外猥りなる我海岸なる近付さらんやうに告諭ーて玉ふへきことを欲
そかくの如く通信の事改謝絶そるにあらすーて　我國主より答書をさゝ
げ玉ふ依ーてそふ　貴国大統領殿下の此の意を諒とーて察ーて玉ふ所の
贈りまいらせ玉ひーし所の　貴國巧藝の布帛數件ハ遠路の波涛を越て
致さる、懇切の盛意なりといへとも前件なる如く通信の事改謝絶
返ー納め玉ふやうにと思ーて召そ所之返そ
貴国大統領殿下の明白ら諒察ーて玉ん
、そへそ事

擬另諭使節彼理文

大合衆國総將大人遠路の所　貴國大統領殿下の使節を奉ー我国ら
再度迫来舶ある事　我国主ら於ても深〳〵其労を慰撫せん事を欲ー玉ふ
貴国大統領殿下ら　我国主ら来諭ーし玉ふ所ハ　我国主ら於てら浅〳〵
思召そ所前ー述るかくなり扨総將大人の具ら諭せらるる書面の趣

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

大人ハ国使の節を重んして事件のさとし和議を許諾かんてことを
思欲せらるゝ所ハむしろ恐るゝ所なくてとるに忽ち
朝廷歴世の法制あきらかに今ことゝ商量そるといへとも速なる是と聴きむるかし
併　貴国大統領殿下の盛意を傳へて大人の喩そ所と亦其理なきにあらされ其懇切なる情意よ於てハ我国主もいへとも答書をなし玉ハさるもの前述の如し但大人六月七日の書面よ云
李國ノ數號の軍船あり其ノ列らさる日よ先進かんらん事を望む
如若和せされハ来年右いくさ船を駛カ来らん右の條約を議定せハ
件の軍船を亦渡来そる事あるハ其意を得さる変あるを若我国を
偏小微力なりと侮り　貴国の巨砲大艦の兵威よて妄そ其気ハ所と
遂んと思ふゝ我去きても無名の兵を起して無辜の生民を死傷せん

事ハ仁者の為そも忍ひさる所なり然ハ
よりも重く又鴻毛よりも軽し我国人別よ心ぞ日本力を横一帯ける者ハ
これ為めるゝされとも　貴國大統領殿下の御書よ云く総将ハ見識
端正才能ありて今度欽差の全權を賜ひ大合衆国よ代りて来りし人そ
と又云く　貴國よ於てハ別國の政礼そ管掌そるとき人民を労動そへからさるとを見めされハいかんも礼義道義をとそ議
究めるへきと始めハ和親を結ひて大よ我國を利益せん事をこひ其欲そ
るに所ありて和せされハ終よ兵戒をもて要して其望を遂んといふことを礼をも
て始め乱をもて終るとそんちかゝる非礼なる事ハ決してあるへきハ
是全く國俗の異なる言語文字の同一からさるより起りて或ハ其
情意の通せそして失誤する者欤仍て大人右の書面そ我国主の

呈覧并ニ供ス可キ諸品ノ宣ク此旨ヲ悉知セラルヘシ此太刀一振三尺飾付
并ニ土宜數件先例ノ準ヒ恥ヲ以テ我国主ヨリ大人ヘ贈ル所
ナリ

按十一年前弘化
改元甲辰也

寅十月六日

〇和義十一年来廣人ト成リ誰レ人カ眷顧ノ
召吟ヒ之ノ懇篤ノ之辞ヲ以テ之ノ恩義感伏仕ル容易ノ時ニ非ス抑
見ヨ事ヲ謀ル事ヲ而已ナラス恩義ヲ忘却ス右仕ル此程ノ運ヒ下ニ於テ礼ヲ
ル事ヲ事ヲ而已ナラス遠引ク事ヲ遠引ク事ヲ而已ナラス運ヒ成ラス時ヲ改
天下第一枚ヲ作リ持来リ差出シ和義ヲ乞ヒ一ヶ年ヲ請ヒ乞ヒ
考ノ之仕置ヲ守ル一箇ノ申政〇是ヲ妨ケル国ノ△京室
ト成ルノ守ヲ而已ナラス御国ノ大基礎ヲ破リ種ク根元
ノ処ヲ了ル我ト存ル付ケ敵ヲ御国ノ心配ノ程深ク察入ル〇いろ
指ヲ刺ス仕ル様ニ仕ル事ヲ有之ノ海陸ヲ共ニ十二九処下田ヘ集リ
いろ方ト石定ル一共ニ事ヲ有之ノ海陸ヲ共ニ事ヲ有之ノ海陸ヲ共ニ事ヲ有之ノ海陸ヲ

刻より出足の心得罷在候○此程會津調練一見の処一同目を驚し候實地の景色ヶ様も可有之と思ひ中軍より赤色青色ゟ種々の旗を不絶振り其指揮を見て動作いをし一末ゝ歩卒に至る迄少ゝ紀律ゟ違ふ事なく一躰の処紀効新書の傳法ゟ相見感伏いたし候○方今外敵孤ゟ受ける処私愚按ゟも余程御内攻堅固ゟ可構ゟ不ゟ遊ゟ中ゝ勝ゟ不ゟ武藝武術を先ッ二段ゟて第一ゟ武士一身の運用とやらもの肝要とも存ゟ事ゟ力黒鍬仕事師ゟし超第一等の荒業を致し候ゟ職分より武とや名義と付ゟ処当時ゟ四民の内を奉ゟ武士ゟ一ゟ弱し候ゟ座ゟ如是ゟて宜中ゝ参り不申ゟ士風の義当代をゟて直ゟ戦国へ引付ケ議論いたし候ゟゟを稍不穏哉ゟて一躰御當家の御武運ゟ御五代の御時より文勝ゟ質を失ひ神君

様の御風俗ゟ御四代を限りゟ校ゟ存ゟ其ゟ事にゝ為入ゟ共賢臣打揃て大業を輔成あり一支保科正之侯を始め松平伊豆守阿部豊後守酒井雅楽頭等誠ゟ御揃ゟ有之さるゟ依て天下の御規則寛文方治ゟ定りゟ我不少大業ゟ成就ゟ座ゟ今とゝても御四代ゟ風俗とやらの今と格段ゟ座ゟをゟ手本とゟ遊ゟ外有ゟ座間敷御四代ゟ御若年方并ゟまへ校方ゟ上より下ゟ夫ゟむつゝく享保ゟ如何哉と存一中ゝ寛政ゟ及間敷とゟ存ゟ処へ御四代以上ゟ中ゝ遠き事ゟゟ合ゟよわき事ゟ仰ゟの弐一躰文とやらの文弱ゟ相成見躰よくゝて人ゟ景斬ゟて我々他へ飛離ゟ智者の顔を致とやらの文の大弊ゟ御五代以来当時ゟ天下之人ゝ読不讀ゟ拘らて

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

一躰ま文弊を受ゟ三河士の風格を二誠意とゟ場合を毫髪程ゟ残り不ヤ
如是ゝて八中ゝ参り不ヤい矣二誠意の処より見渡ーゎへハ当時流行の嫌
疑るとヤものゟ全く矣用ゟ属ーゎ其外謙遜るとヤるゟ自己の不都合
る処ゟ謙遜を唱ひ必竟ゟ前勝手の道具ゟ遣ひゃう成行ヤい神君
様御法令ゟ儒者医師を制外の事と見へーゟ誠ゟ御徴意有之ゟ義と今
更甚以ゟ感伏い〇儒者医者制外とあーゟ実ゟ不堪感嘆い三河士の
気格実ゟ格別ゟ三方原のゟ事大造るゟものゝよい長崎帰路同所を過き
一首の歌を詠ーゝ永く嘆賞いゟーゎ〇三方原ゟ三河士ゟ於く未曾有
矣類の一段中ゝ企及ふへきものゟ矣之ゟ矣二誠意の処を手本と仕度義ゟ
ゟ座い〇外敵ゟ勝やう欤心配至極ゟ當時の事情上下気乗落く何ゟ其場
不参ゟ思ハるゝ〇是を上ゐてゟのろさへ事をゟ遊ゎゆく下みてあ
くたみ気抜ケいゟーゎて日本国を可ゝ取我又傑きとをゟるへきや二ッ
一ッの場合貴賤男女をゟく憂苦いゟーゐ折柄只ゝ上の御挙動を仰き
渇ゟる者ゟ飲をゟ易ーとヤ而此時ゟ於く先ッ御内を堅固にゟ遊ゎく
後ゟ大号令仮ゟ発ーあゝハ天下の風気鼓動ゟーゎ何事ゟ變應可仕義
相違有之ゟ後い伊勢ゟ板ゟ不及ヤ土佐ゟ後河内ゟ枚ゟまゐい
やゟいゝゟ是非ゟ上ゟるゟ賢宰相賢明のゟ人ゟ御座り不ゝ遊ゎ事ゟ雑相
叶万一汚名ゟゟ取りゝ遊ゎやうゐてゝいゎゟ天下ゟ行立不申社稷人民仮
如何とゝゟ成やう有之間敷日本開闢以来始ゟの大事ゟゎへハ右へゝ應い
程のゟ人物ゟゟ成り不ゝ遊ゎるゟ相当不仕中ゝ不容易ゟ義ゟ存い〇

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

心配あり△芭蕉の如き大なる草ハ幾種より生ー千尋の大材ハ幾種より生ー其種ハといふを見る所より相違ーて其種ハ決ーて生ずる事なし其種ハ微小なる物なれども夫より此大なる物を生ずるに思ひ至れば天下の事業ハ種ありて極て微小なるよりして創初を何程ニ思ハざるべからず其種ハ大小の万物都て生ずる事なり何卒種ハといふものを見付ありて被遊度事ハ印幡沼掘抜の如く創初より大造ハ掛りある事ハ古より多くハ成就せざるハなし此処ハ考ふべきの至ニ候高祖第一の功臣ハ蕭何と申し項羽と戦争の最中ハいまだ後へ引下りて一人兵糧の運送ハ何ニ目ニ立さるやうなれども兵糧ハ実ニ大切なるものなれバ蠅の聚る道理ニて此時代乱世ニハ食物の有処へハ人聚ら次数度の敗軍に漢の散卒再心聚る事ハ得ーざる先ハ兵糧多く廻り居る故ニ諺諄のやう可ニ思召ハつとそれハまへ校ニ段ニハ昇進の徳ニ大分ニ備ハりてハ天下実ニ倚頼ニ上ハ私義不労ニハ何卒ハ徳ニ附く寸志を伸ニ度心底ニハ坐ハ○貴船ハ義知の如く彼ハ勝手向の一事ニ大砲大船の製造并ニ品川ハ墓場築立ハ入用実ニ算数ニも及ひ難ーハ心配至極ニ△是ハ法ニ寄ニ随ひ分ニ遊方有之義とハ存ハ治世ニハ体裁ハ尚ひ戦国ニハ事実ハ尚ふ是経済の大法ニ体裁ハ次ニハ事実ハ次ニ遊ハ往不相成ハ多キ中ニハ績方ハ成間敷ハ一躰私共ハ小身ニ者ニ役ニハ小普請金上納いたし冥加の為小破取繕のハ勿論ハ法に相成居ハ上ハ此ハ時節ニ於テハ右金子の上納ハ免ニて品川沖の

場所へ出役致し一自身もつさをかつぎ仕度を存い筋力ルを之更ら
任に堪申間敷ゟ〳〵共精一杯其堪さる程よりを公の政方可有之日本國中
一のゟ守り大切のゟ軍用土ルちき重事ふゟ〳〵を素かゟ相当の場合とら
考ゟ中ゝ以治世の規則を以て一〳〵に人夫を貫上ゟ召遣ふ招て績
き雑くゟ右等風俄ゟ移一あるゟも執参のゟ方〳〵を不及やはま〳〵極方
より第一ゟ手本をゟ出一ふら迫ゟそくゟ来し私おを動き雑くゟむうール
加藤清正抔自身石垣を組立らきゟ事ル有之〇其通りと清正ル石垣依
組立加賀大納言ゟもつさを擔きゟ事有之〇利家卿のもつをかつ
うきーハ秀吉公伏見の城築立の時と承ゟ日本開闢以来大納言おそもつ
さをゟ擔き有一を君ゟ一人ちる〳〵と利家ゟの奥方ゟ笑あり一とや事

実録を見〳〵ゟ其通りの義ルそゟ勘考ら遊度奉存ゟ〇極意の処正心誠意
ゟ之ゟとハ何ゟ之ゟ参ら雑一　誠ゟ左抔ゟゟ座ゟ　神君様此ゟ治世依ゟ
聞きあり一ゟ誠意依寄を合ゟ出来上り十天下国家之織田豊臣ゟとの
権略ゟ出一天下と八格段の相違ゟ座ゟ〇人物を有之ゟの故ゟ是又
土のら皆方ゟて何程の人物ゟゟ不自由ゟ決一て有之ゟ間
夫ハ如何程の大伽藍依造立ゟ之ーゟゟ先ツ家初ゟ絵図とやゟもの紙生
ーゟゟ良工拙工とゟ手業相應の処ハ取付き仕事ゟ之ーゟ絵図さへ出し
ゟ〳〵ゟ他方の大工ゟそゟ其切組の法を銘し師より伝ゟゟ別ゟ我切組とて
教ゟるに及ハそーゟ成就ゟ至るゟ天下ル其如くふて先ツ繪図をゟ出
一不ら成ゟ時ゟ数百人の大工共迷ゟに立並ひ或ゟ鋸をかつゟ或ゟち

木文
なるゟ共悪一き
注文之図出ゟゟ
不出ゟル方ル〳〵し

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

やうなを持左官をさる玖提寺今玖〳〵と待居をそれ絵図出たる内を仕
事玖始むへき抔ゐ一繪畳ハ跡より生すて一兎も角も先ツ仕事玖始めよ
とて取掛る時を組合をの所ゟ至りて其切口悉く合ハ不細工と成ル思召
叶ハ雑一全図を胸中に備ハ程の大工支国中ゟ何程も有るもの一さるよ
ゟ立兼ハ是ゟ絵図玖出さんて一て成功をハ責あるゟ其伽藍玖造り
依ゟ所謂備ハるを求むといふ成ゟ人材至ゟ不自由せるゟ絵図さへ
ハ程の全絵図玖胸中に備ハ者ゟ多ゟ不自由せゟ故ハ義を有之ゟ故ハ
出一あゟゟ人物そハ多次ゟの者出ゟ
當昔ハ軍制ハ改とハ廉を即此絵図の処ゟ可相當ゟ〇三百年治世

ハきハゟ又ゟ返一再興いきー一ハ類例支和漢古今の間誰ゟ一一
有やゟ一や君ゟそハ多事ゟ一ゟ下ゟ輔成一て大業成就あゟ一支誰
ゟゟん△再興の類例をいハきを取ゟ当ゟるへきゟ下ゟ輔成一て大功あ
りー八多ゟ有之ゟ覚ハ差当り旧き所ゟて管仲ゟ桓公を助ゟ一桓
公の周室玖尊ゟきー一ゟ〇桓公の管仲へ委任あ
りー大度ゟ中ゟ得難一桓公ゟ事の人と一ゟ〇ゟ人臣の職分ゟ
而後止此外ゟ之ハ〇往年石川左近将監ゟ大ゟと叱ハ事有之臣ゟる者ゟ
代の気運を論一時の有為ゟ名ゟるゟ玖論するゟ支曽ゟ有間敷事之只一心
ゟ當然の奉公玖出精するゟ外ゟ一とハいふ一氣運類例支論すへき処
ゟあゟ困り入之〇海國図志の内魏源ゟ海防策の物語有ゟ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

追加

△三河榮秀記と申すものは徳河の末記と申やうなる事相見え当時までその呼符令一致ゆやうに存ぜられ十三代は至り仁徳の君御治世天下百姓なる迄と有り　文恭院様御代より外何事もなく参り揃い当節まで

本文是の字の我、付てハ去ル巳年の訳認て姉小路と改指出し候ニ付又ハ帰り今手元ニ有り

ハ無之候へ共

と雖も実ニ治むつの〳〵き事なれ共然処〳〵近年不圖ル外敵多く敵国外患其国必栄と申時ハ天下を是迄て吃度ハ再興とハ存ぜられ候ハ此一所より氣運ニ赴の説話は及ハ

論語子貢問政章和解

子貢問政子曰足食足兵民信之矣子貢曰必不得已而去於斯三者何先曰去兵子貢曰必不得已而去於斯二者何先曰去食自古皆有死民無信不立此章を子貢遍邑の幸となり一時ニ問ふるあり何地々知られ共定て敵攻受る土地ニて兵足ら食ル足らさる土と見ゆ此地ニ於て政をせんニ先王の掟通りにのミ参り難く権変の計ひるくさ叶ふまじくと其意旨ニ向ふるあり孔子の掟ニ信を政の大躰る事言ハ一ニ籠もり孔子ハ申告にされハ食穀の品今の如く乏しくてハ参らハ先ツ食穀を多くすへし次ニ兵備の品今の如く薄くしてさへ参らハ兵備ハ厚ふすへし食穀兵備ニ整ひたらハ敵攻防くるれ叶ふさる政道

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

行ハ民人弥信服するに至る〳〵と仰をらる然るよ此邑中に疲弊と落
入る食穀兵備とも容易と整ふ〳〵きに至らん如何せんと困りく又向政
發せ一ハ成程ならむと存一知きとも餘裕あるき差支ひありく行届ら
る時ハ食穀と兵備と信との三ッに於ていつき政差止まして然る〳〵
とふ孔子の告よ夫を兵備政見合すん〳〵と仰せらる信政此数の内よ
入きく三ッとせ一ハ土地人民政ると食穀と兵備ハそて叶ハす信
ハ聊缺ル処ありとも政の趣意ハ叶ふ〳〵と思ふよう信政此内よ
ゐて問一るう然るよ此ハ告を聞て兵備政見合せん〳〵餘裕るそ
思ふよ人を性命あくその物種るう其性命政保つの食穀もみ、何程
改事に信を重一とするとも性命よち替らきまと思ふよう又向を

發一く然らハ其上よも餘裕るき差支ひありて行届らさる時ハ食穀と
信との二ッよ於ていつ先を差止よ〳〵く然る〳〵とふ孔子の告ハ
食穀政差止よす〳〵食穀の務政やめよせんに人々皆死す〳〵古より
人とせてを免せさるとの一人もるし拠ころき事るう信をやめよするよ
ハるく信政やめよすれハ人民離叛して政事政苦労するまてルるく
其村所を忽ち敵よ取らる〳〵人の死政厭ふよ及ハき雑一と仰せらを
ゐ可相成次

外国のく信とせ一て内この信義ろきハ金と国のきー〳〵当今の世態如何此先ム年のにらんとハ必異船ム来穀を持参り此方ニろ交信を失い一所へ敵ろハ恩を施一て如何とも可成拠ゐ可相成次

子貢政ヲ問フの意ヲ以テ一言ヲ日本國ト引當テ即今外敵ヲ受ル
の時勢ヲ譬ヒ察ヲ立ルの左の如ー

足食

日本國ニ於テ外敵ヲ受ルあらバ先ツ其國ヲ富ー テ金穀の溢ル、やうに
ー總國の本根ヲ固ムー是ヲ本務ト心ヲ用ヒ地力ヲ盡ス時ヲ國豊
ー治世の規則ヲ改テ戰世の格ニ應ス時ヲ雜事省テ財用ヲ餘ホ
シ

足兵

國ヲー財用の餘ルやうにー テ日本国の武備ヲ整のへ大砲大船ヲ多
く造ルヲ要害ヲ修築ー テ水陸戰の調練ヲ習熟スへー

民信之

武備金穀依備ふるも信義全ふして土地人民依るらんを為之御国前後
の御趣意相揃ふ引違ひなきよふに致す是日本国の信と
外國御取扱ひの信左之如し
日本国開闢以来祖神獨立の御国躰
寛永の時外国断絶の御趣意
寛政四年蝦夷地ふ於て魯西亞人御諭書
文政元年長崎に於て魯西亜使節へ御諭書
同年被　仰出の御趣意
同八年蝦夷地ふ於て魯西亞甲必丹へ御諭書

文政八年二念ふく打拂ひの御趣意
天保十三年外國漂流の船仁恤の御趣意
弘化元年和蘭國王へ御返翰の御趣意
其後長崎ふ於て和蘭甲必丹へ御達書
平日長崎ふ於て唐人共御取扱振
同断同所ふ於て和蘭人共御取扱振
右の通り御趣意相揃ひ一貫致し外國ふ内地ふ疑惑する処なく
同く御取示に信服するあり
亞墨利加国へ御返翰并御取扱振
魯西亞國へ御返翰并に御取扱振

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

右二ヶ國へ御取扱振外只今迄の処と御趣意相揃ふやうなれハ直し
若し相揃ハさるに於てハ其揃ハさる処を見て速ニ御引直しある
御政道を信ずる上の事ニ候へハ
去兵
日本國の大信弘缺きんとする一大事に及てハ金穀の御備ひ第一と
御頓着あるべきにあらず
去食
日本國の大信を缺きんとする一大事に及てハ金穀の御備ひ第一と
いへども御頓着有へきにあらず
自古有死
御武備ひ整ひ金穀の御備ひ落ち事起んよ幾度も敗軍ありて死
人の山を築くに國中を飢餓ニ及ひ死亡するもの多きに至りて生と
ていふものハ一度死ニ至る此一段ニ至てハ是非ニ及ハさるなり
無信不立
萬一日本國の大信弘失ハきんニ國中ハ先達て離叛兵食を富ふて
ゐるに其国を忽ち敵に取らるゝに人民の死弘厭ふ処にあらず
謹按するに方今の御事情誠ニ危く存し奉るなり亞墨利加魯西
亞といふ内ニ亞墨利加といふ処ニ一旦を三五年といふ処をゐ示し有
たらんニハ其処ニ附入て御趣意のゐ引直し方弘計ふべし御趣意
ゐ引直る時ハ下田箱館へ繋泊を許されしを素より天保漂民仁

恤の御趣意に當り薪水食料被給し船修復おそい即御仁恤の如
し明白あり只缺乏の品とあるを船中缺乏の品と致し度本國缺乏
の品とあるをいかゞ然るべくうんぬん此時勢に及ては内外
御急事の儀海陸一同に御間數ものるゆへ早く御踏留被附ら
きる運び有度あり矢張ハルリアワタムスの両人に依て對話被遂
べきなれ折角と二ヶ所の繋泊を開きうんぬん大功被急にして戦爭被起
候ては朝夕ゆきゝの嫌ひ有つきるれい却て左程に及ざるべく
整ふ事有べし前後の御趣意とある内は近年の処まで和蘭國王へ
返翰の御趣意并に甲必丹へ御達しの旨し有たらんなれい差向き
其処へ障りて必ずむつかしき事情を生すべきやいつまでも御留

を附らきて御引直しうんぬん但し下田湊被繋置にせ
きんい差当り御國の人氣を動すの大端とあれい今姑く御見合ある
て御趣意一定するの期被待て講ぜ度ぞうの趣意引直しの処即今
に於て御むつかしきゆへきるゝい極て御混雑を有つきるれとも後日御
引直しの時節に御手都合宜しきやうと疑と御目当被附て只今より
御保護のみなれ方有べしいかゞよ日本國の大信をい缺ぶべからず

書甲寅十月六日聞答後

今茲壬戌三月十八日訪上田候分封郡宰山口
平太郎於鹽崎之治所談聞平太示余此冊子曰、

是　大朝小吏小田又藏與尤衛門尉川路君之
問答而朱點乃水戸景山公親筆蓋原本也云余
校讀一過喟然而嘆曰惟距今九年前安政改元
甲寅十月六日而雖機既後犹且有可爲者時然
而有爲此議論人而無能用之人以故尒來夷虜
益驕而馭攻益軟上事苟安而下皆切齒嗚乎焉
得有回天之力人告之於吾輩杞憂之志二人相
對抃喉長大息臨別借得而皈手録一通題此數
語以完趙云爾松城迂狂叟

蒼巇十五日要蒙利名使節応接の姿勢ニ假條約の事ニ義ニ節ニ等を以て近来世界ニ形勢一変ニ唐土の昔我國の七雄四方ニ立ニ如く己ニ外國と條約の取結ニ交通ニ至ニ上ニ古来ニ無キ御制度ニ御國務の後ニ明暮ニ日夜ニ心ニ勞ニ給ひ候非常之功ハ非常の勞ニ報ひ給ひ候成中興ニ大業を被為立ニ國威の更張ニ機會ニ赤ニ被為在候ニ付當分の間人心折合ニ節ニ内外ニ御權の袖を引ニ一つニ新計ニ先使節ニ之の談判ニ有絲ニ御勝手ニ被為遊候ニ付ニ今般ハ廣益の為ニ國家治乱之境ニ乃右再応ニ分獨心ニ及ニ申ニ一つニ上ニ仰出ニ候ニ付ニ一議ニ申ニ出ニ候ニ中ニ義ニ出ニ候ニ事ニ無ニ遠慮ニ被為遊候ニ御事ニ御勝手ニ被為向ニ御國ニ御為ニ相成ニ義ニ存ニ候ニ者ニ無ニ忌憚ニ申ニ出ニ候ニ事ニ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

多と観念仕給ふ乃至六の字も亦之も點出來の初より家比度　天象よく深く
宸襟は訝るまでに人心の方向を察まる事有　私共近赤心被　閣老
勅命おもむきを以て各存念伏臓可申旨首被　仰出候間仍て忌憚
備亜使取扱ふ次第集と及霞候　仕候　ニストル残置
其砌宿仕候ハ　　　

迄も継続して聯盟を結ぶものと認め
の城々多く皆自国の忠義の為と詐りて外寇を御さいわざるの事に候、
海岸緊要の害を設くるに、呼と要害多く聯絡仕候と
存候所と大砲の術も、精巧まりしこと有之候
より、其実用に供し難き弱の義にて候、且三都を始め外廓の設一切無く
皇居とても甚の手薄の様子にいより、外国の侮りを受け一つも勝
算を考ることの仕様をも不知加いて直に彼の申し候ことく、許多の外蕃の引受
け交易の開き候ことに候、大易の慢藏誨盗の戒を被犯いの儀に相当り深
く恐懼仕候義に候、且此度の条約に已に仕容しと申
応しの覚悟を外にしては、決して容易に無之候はゝ、松英銘と赤心一つを
了とし
勅命有之旦今度の条約免ても難遊
御許容右衆議中

叡慮を体し精と取鎮めいても彼是及矢要候節ハ
前の評決ら 仰せ畏承之一度ハ甚以驚愕仕候の如く畏御許容、相成ゆを今更ら違
背いたし、彼是を名と設し恣ら無端成開き一つハ国家の
勅許難相成と被 仰下ハ、右、不被為従の時ハ、
海いつまの道を設けるも由無き故と存候、再思熟案仕候へハ今度
天朝ら
勅命の重くこそ誠と幸之の事惟論盗て禍患を被為免ゆのこゝろ
躰も被為立候の処相成ゆも此の一挙と可有之候、仰は彦条約ら
ら八全く 天朝の為意、有ら 天朝に於て
立ら候ら辞理甚致ら候親睦の情を出ていわら成ゆとも全く欺罔恐嚇の詐術に
も無ら候ら慶ら慶ら候ら 主上の叡慮をとら生ら出ていわるゝ二有
之候ら就ては其ら府之廉々端改めての外国有之其次第ら依ては大使を発し

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

彼国都に至りて其政府の官吏と及對決し右款目を
辨明せられ　　齎慮文旨次て別帋に認めし条々尚善く其辞を修飾し旦酒
色を加へ　洋文譯し一々理を詳し　右使節のまのこと相示いい義理ある
評ありてうるさき事共なり　其詞必ず寡くその詞寡くして要を得ざる
畢の詩諸ら夫人家の子弟ら学ぶ人選をえて
仰きて是非とすべきを知り彼を敵に付猥に兵を動
為す物作りて容易に兵端を開らかざるの素の楚を伐んと欲しの実也
しの義ハ新和盟為す其上比表に専らお寛容をもて旨とせられ右等の廉と徳て
見ゆるの事のごとし　　天朝にて中ごろの假借多ありて兼ていハ兵を加ふるとの義と彼国の看共也
能くの如あるを知て彼を伐んと欲しの実也
善對の為これを伐んと企ていし要平伸と師曠との

為ら是を止めん為ら下降とある国其人あるを示ハ兵禍を招くの善畧不るをえず
これらそれ孟子を行ハれて学ぶ廼の向を出ずして童を折衝すとうるの
左ら当時も右ら如く慶望の多ハ第ら為しお要し給ふ　天朝の
威霊を御発揮ら為て亜人の膽破砕ら永く
も畏ろ為ハ心無なるべし等の為変をなして一時の辛難ら為ても後ハ
向そハ仰ら彼ら我ら為ハ実ら以後十年ら為ハ辛苦ら為ても後ハ
ら為ハ天下城割之義も仰ら辛外蕃之侵収当之大船ら為ハ相成　尚
カら兵威ら為て外国の侵蔑をハら為受ら為ハ速ら中興之
ら為ハ右　　帝並徒ら上　　ら為国もら為ハ
四月

天皇の御事を記すべき国史の編纂は、古来、国家の大事業とされてきた。

別冊

天命の徴、新意を以て此度露を攻めて西洋諸国に於て世界中一族一統に致し度欲望の隔ろく生霊を愛育し有無を交通し互いに自己の私を営む世界の利を図り人力の邪欲を肉つるの心を翼け天公共の道理を全くすることを要し其方向此方向を定めず其方向を全くうち務めて其手段に於て唐国之人民阿片の為に害を受けて故唐国官府是を厳禁の国法あるべき道理を以英国に対し自国の利益に於ては親を結び彼文国人国の厳禁を犯し人民の残害を顧ず刺客容易ざる事務成程其痛み火砲を以用意の為とて兵を興し唐国を恐嚇して其求むる所を叶へしめとての誣言なり唯唐国に於て罪を英国に帰するは条理に違ふ事なり英国は条理を以て天地公共の道を行ひ唐国の為に害を除き自国の利益を謀らず唐国官府の為に其罪を正し其功を賞し其過を免し其罪を赦し其功を賞し其罪を正し其過を免し其罪を赦し其功を賞し其罪を正し其過を免し其罪を赦し其功を賞し其罪を正

勅廷寛容を旨とされ以て干戈を用ひんを必避のつゐに彼の一敗の風波を失ひ又不害の一つと英国と唐国との取合つるや喋々として印度英領デリーの大乱を仍故一切口をはさまず全く苞蔵の言思ふ和睦の故のつゐに天害あらんや心付なく英国人唐国の天国と雖も人民殺害を恣にする勅廷好誼を破て干戈を動すの如きは決て小国の本邦まで條約の葉のよく割すると家あらんや勅廷と和睦の後と転遷ふと英国と刑一つとして有のとも叶ひます〳〵とのつゐに條約を割られとも干戈を動さず人民の害ふ国政の害ふ国民の害ふ小児を数くの税とを設ず人民を指害せむ事を理ずまつゐに又不害の三つそと吾勅廷と和睦の後と一と変信約を被らの上ふなつて和睦を旨とし喜悦し歓ぶのつゐに英国と唐国と干戈を動すの事ふ

岩陰先生線貫氏墨夷応接論評

墨夷剛暴ニシテ恩義ヲ知ラス其国ニ入ルヤ必ス其国ヲ奪ヒ其人ヲ殺シ其財ヲ掠メ其婦女ヲ犯シ其子女ヲ攫ミ其牛馬ヲ駆リ其五穀ヲ運ヒ其舟車ヲ奪ヒ其器械ヲ毀チ其社稷ヲ滅シ其宗廟ヲ焼キ其神仏ヲ破リ其人民ヲ奴隷トシ其国ヲ墨夷ノ国トシ其名ヲ改メ墨夷ノ名ヲ以テ之ニ命スルニ至ルマテ其暴威ヲ逞フスルモノニシテ其国ニ入ルヤ先ツ其国ノ人民ヲ愚ニシ其国ノ風俗ヲ壊リ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ愛スルノ心ヲ失ハシメ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ憎ムノ心ヲ生セシメ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ棄テ墨夷ノ国ヲ慕ハシメ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ去テ墨夷ノ国ニ来ラシメ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ忘レ墨夷ノ国ヲ思ハシメ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ捨テ墨夷ノ国ニ帰セシメ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ背キ墨夷ノ国ニ向ハシメ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ敵トシ墨夷ノ国ヲ親トシ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ賊トシ墨夷ノ国ヲ君トシ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ滅シ墨夷ノ国ヲ興サシメ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ亡シ墨夷ノ国ヲ存セシメ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ失ヒ墨夷ノ国ヲ得セシメ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ離レ墨夷ノ国ニ属セシメ其国ノ人民ヲシテ其国ヲ棄

心学ヲ西ニ不足載齒牙

当今ハ爵位ノ貴テ才徳ヲ貴ハサル凡ナレハ学校ニテ大改正ノ後ヌルヲ必ス行レカタシ唯大儒ノ召出サレ執政ノ下役ニナレ内ニ其幕中ノ賓トナリテ行フヨリ外アルマシト思ハル

儒者之道因改事ヲ而達ス若講書特其細事ヲ未節耳浮屠也耶穌也欲以講説防之柳未矣

測量申立ノ下ニ、西墨統領ノ命ヲ受来ルニハアルマシト察セラレ其證拠ハ見程ノ大事ヲ大統領ノ書簡モコレナキヲ才ノ不審之端ヲ表ス凡ソ十国王ノ命ニコレナク尾船将ノ働ニテ一事ヲ他国ニ開ノ片ハ其者ノ功トナルヲ海国図志英夷ノ処ニ見ヘタリコレハ英夷ノシニ北洋一般ノ風ト考ラル果シテ彼者一度還リレ後再ニ来ラス昨年来レルヨリ然ラハ船将ノ意ヨリ出タルヲ明シタリ

孫子復古引

孫子十三篇者。兵法之経也。不可叨動順序矣。近世加賀人。有關重秀者。七書正義之書。而倒置九變地形九地篇順序。以逞一家之説。其序篇釋名曰。九地者。地勢之要也。雖然。亦不可終九地之要。故次之以九變。九変者。九地之変法。而其奇ニ妙ニ不可極。此変之用也。是其言雖淺。尚賜眩謗見之人矣。於是乎世之讀孫子者。一口唱之。而至以自古所尚之魏武。及徂来之註。為錯亂謬誤之甚焉。嗚乎。可嘆哉。可謂重秀者。武帝徂来之罪人也。夫為孫子之書也。他與述

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

刑賞教令之書殊趣。而言用兵之樞機。優化而已也。故可解而如不可解。可悟而不可悟。先言隻語。莫不出鬼入神。髣髴於幽微玄冥之際者。如探物於暗中然。割一句而弄之。則如瓊如珊瑚之映燭。如瓔珞之移鏡。拔一章而玩之。則如如錦如繡。如綺如羅。如如罽絨之氍氀。如幡幟之懸空。如如海之現蓮婆城。採一篇而評之。則所謂無窮如天地。不竭如江海。終而復始。死而復生。如循環之無端者。是也。舉全篇之文而論之。則曰軍形也。以無形。曰軍勢也。以以奇正。曰九地也。以處女脫兔。是所謂微乎微乎。神乎神乎。紛＝紜＝。渾＝沌＝者。是也。宜矣重杳之過而作倒置。余一日讀孫子。到九地之篇。混然臥書而睡。夢中有二人立床前。一人則戎衣而横戟。一人則儒服而撫剣。告余曰。我欲戮一之罪人。余曰。君非武帝乎。君非徂来翁乎。我知二君之意。我有墨戟与筆剣。營紙城。布文陣。句螺章角。加戮于之。而後當二君之辱耳。君旦去矣。勿復言。竟而梦忽醒。余以梦者。為雖五臟之所以。呼便然也。亦有故也。乃別作註文。使三篇之順序復於古之位。以名孫子復古也。窃意武帝之註失簡。徂來之註失繁。皆不便於讀者也。因蠲繁劇。補簡犖旁

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

寓自家之說。正重秀之所為。以果夢中之言。安改
丁未孟冬。描於江戸木挽街之僑居。
鉛槧

此多賀谷生ハ長州萩の藩士

多賀谷勇再拜伏乞

刪正高評

橫濱襍詩　并遊橫濱引

散人謹乞

西海散人遊東海。締交於都下之碩儒二年。
矣。比脫縫腋。付俎豆於諸儒。移居於木挽街。
而專說軍旅之事焉。每霄旦一嵐來於牀下。
余獨居蕭瑟之際。甚嬉之。與食而相親。已經
一霄。又一嵐來。歷一旬兩三并來。隔一月五
六七八成隊。數月之後。語詆譸辭洛譸說嵐
之嵐。絡繹連絲。莫不來者（ヤツコ）一室遂為羶臭之
衢也。余猶與食親之。既而我食竭矣。自餞者

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

數月。顏色枯槁。手足瘠。力不能勝重焉。因悟不可給彼不厭之慾。遂與之絶交而不與食焉。衆鼠大怒。噉筆架。嚙研屏。溷墨池。嗑机卓。碎簡壞帙。割帷斫幕。或入吾之被中。而跋扈於肘腋。跳梁於股肱。蹴破踏殘腹背胸頸之傍。猶賊軍之來襲然。其暴莫不到。而其勢一不可近也。未能除之。後悔初親之而已矣。因歎曰。海防不可忽也哉。余嘗聽之。蠻夸之情態亦如是也。語曰。聽而識者。不如視而識之審也。故爲此行。于時安政疆圍大荒落。九月。

螺角無聲車不東。群鴉飛去將軍營。秋風撫劍橫潰圍。泣憶輿人林子平。

驕鯨黠鰐簇中央。桴海輪行武總房。地勢匝如仁者絅。纔披一面塞三方。

羯狗遮路難奈何。鴻臚館外益多事。醒風四起惡秋氣。數里狹斜覆亹過。

白瞳丹髮聳摩肩。以有琴無龍斷前。鑱出覘然真面目。報言亜墨唎加錢。

穀粟層巒聳大峰。埠頭高積万千鍾。小艖來往運巨舶。宛似春園報衙蜂。

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

萬里大洋凌怒濤。更番輸去救民膏。却思纔縷乞憐者。幾立路頭呼又號。
繁華一旦壓江都。新設劇場羶臭衢。唐室遺風君看取。俳優歌舞慰蕃奴。
誰倩曲六碧欄東。其面加藍其髮紅。阿妹焙茶姉行酒。周旋願命覥教中。
蠻奴餧饕口流涎。買酒鯨呑喜欲顛。汝國人民我國犬。酩酊匍匐伏土泥眠。
萬夫豈敵獨夫雄。士氣尤豪大日東。嶽筆跳梁吾自若。駿神一策秘胸中。

深憂狂語稿

夫レ天地有テ而シテ斯ニ人アリ人有テ而斯ニ四民有リ四民ニ長タルモノハ士也士タルモノハ已ヲ修メテ以テ人ヲ治ムル者ナリ故ニ銘クナタラント欲スルモノ其道ヲ辨ゼズンハアルベカラズ之ヲ辨スルニモ亦羽カニセスンハ有ルヘカラサル也其道トハ何ソヤ即チ是レ天地吾レニ賦與スル所ノ者ニシテ而シテ之ヲ有スレハ則人ト為リ之ヲ有セサレハ則チ禽獣トナル生民ニバラクモ離ルベカラザルモノニシテ而之ヲ全フスルモノハ士ノ天職ナリ嗚呼士タルノ職重シ且ツ大ナラズヤ吾國

天統一姓上下分ヲ守リ萬民業ヲ安ンジ以テ今日ニ至ルユエンノモノ即チ此道ニ由ルヲ以テ也天地ヲ窮メ古今ニ達シ固ヨリ之ヲ已レニ有シテ而易フヘカラサルノ大道也人ノ至寶國ノ大寶豈ニ之ニ加フルモノ有ランヤ吾ヶ古ノ人皆

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

能ク其固有ヲ以テ固有ヲ修ム其至教不言ニ存ス彼ノ西土ノ二帝
三王ハ之ヲ名言スルモノニ其文教ノ如キハ吾レ發セズシテ彼レ發シ吾レ取テ
而シテ之ヲ用ユルノミニアリ彼レ何ソアツカラン且儒教ノ吾カ
國ニ入ルヤ久シ而其國ニ益アルヿ固ヨリ小ナラズトイヘ𪜈其弊モ亦之ニ隨
カフ儒生多クハ文學アルヿヲ知テ大道アルヿヲ知ラズ故ニ邪説ヲ唱ヒ妄言ヲ
ヲ發シ世ヲ惑ハシ人ヲアヤマリ終ニ其益其弊ヲアガナフ能ハサルニ至リ大道之カ
爲ニ明カナラス士風之カ爲ニ衰フ予至愚竊ニ之ヲ憂フルヿ深シ故ニ黙々トシ
テ唖ヲ學フニ忍ビズ此狂語ヲ發ス其邪説ヲヒラキ妄言ヲシリゾクルニ非スン
ハ大道明カナルヿ能ハス士風振フヿ能ハサルヲ以テ也豈ニ新奇ノ説ヲ立名ヲ
ヌスミ利ヲ釣ルノ輩ニナランヤ夫レ吾カ大道文教ニ依テ之ヲ修ムトイヘ𪜈
其実ハ固有ヲ以固有ヲ修ムルニ非スンハ爲シソ能ク之ヲ明ニスルヿヲ得ンモトヨ

リ文教ノ能ノ爲ス処ニ非サルナリ蓋シ
天統一姓上下今ヲ守リ萬民業ヲ安ンシ以テ今日ニ至ルユエンノモノハ固有ヲ以テ
固有ヲ修ムルノ致ス所ナリ彼レノ文教ノ如キハ之ヲ口ニ言ヒ之ヲ耳ニ聞
クキハ則甚タ美ナルガ如シト雖𪜈其實ハ多ク無用ニ帰シ或ハ却テ固有ノ
良心ヲ害スルニ至ル是ヲ以其國先王ノ道トイヘ𪜈亦遂ニ行ナハレス周衰ヘ
テ儒者ノ手ニ落テ其道野ニアリ宋ニ至ッテ王道地ヲ掃フ故ニ空理ヲ談
シテ實事ヲワスレ虚文ヲ講シテ武備ヲ缺ク是ヲ以能ノ仁義ヲ説ケ𪜈其
心ハ君父ノ讐ニ安ンシ能ノ忠厚ヲイヘ𪜈其情ハ薄弱ナリ經義ヲ修ムルヿ
ヲ知レ𪜈敢ニ向ッテ死スルヿヲ知ラズ書巻ヲ手ニスルヿヲ知レ𪜈矛戟ヲ執ルヿヲ
知ラス故ニ議論多クシテ而成功鮮ナシ其道ヲ守ルモノ有リト雖モ已レノ一身
ヲ潔ヨウスルニ過ギサルノミ是レ彼國天子シバリ姓ヲ易ヘ後世ニ至リテ簒奪

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

相ツギ宋ニ至リテ終ニ戎狄ノ有トナルユエンナリ是レ其文教之弊然ラシムルニ非スヤ嗟嘆ニ堪ヘズ故ニ吾士君子能ク吾カ大道ヲ明ニシ其實ヲツトメ其文ヲハブキ書生ノ空談虚論ニ惑フコトナクシハ則チ内ニ存スル所ノモノ正クメ而其本固シ内ニ存スル者正メ而其本固キ時ハ則異邦ノ教ニ依リ異邦ノ事ヲ修ムルモ皆吾カ德ヲ成シテ而吾カ神國ノ光輝ヲ益スニ足ル此ノ如クナレハ則倫理愈全クシテ而大道イヨ〳〵明カナリソレ人心ヲ賊シ風俗ヲ害シ大道ヲ亂ルモノヒトリ陋儒ノ妄言ノミナラス其尤モ大ナルモノ佛者ノ虚誕アリ俗學ノ偏見アリ洋學ノ巧言アリ是亦邦家ノ深患ヲ爲ス深ク察セスンバ有ル可カラズ語ニ曰肉多シト雖トモ

食氣ニ勝ヘシメズ是レ其本ヲ害スルヲ恐ルヽナリ異邦ノ學異邦ノ事猶ヲ美肉ノ如キナリ吾レニ益アルコトサナカラストイヘ𪜈益アルモノ又必ス害アリ故ニ之ヲ學ンテ其道ヲ得ズ之ヲ用ヒテ其方ヲ得サルキハ則吾カ本心ヲ傷ナヒ吾カ大道ヲヤブル其害拳テ言フヘカラス是レ世ノ或ハ彼ヲ敬シ吾ヲ慢シ彼ヲ内ニシ吾ヲ外ニシ甚シキハ則異邦ノ奴ト爲ツテ而自カラ知ラサル者アルユエンナリ是ヨリ論スルニ足ラストイヘ𪜈才學群ヲ出ルモノニシテ而尚シ之ヲ辨セサルモノ多ケレハ則之ヲ論セザルヲ得ズ夫レ邪説ヲニラキ妄言ヲシリゾケ然ル後道ノ真シ見ルヘシ真トハ何ソヤ虚文空談博雜無用ノ皮膚ヲ去ツテ而人身家國ニ切實有用ナル所ノ要道ナリ即チ所謂大道トハ是レナリ其言後世ニ垂シ彼國ニ出ルトイヘ𪜈其意ハ則千吾カ上古ノ道ヲ擴ムルナリ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

り天下ノ能事此ノ二言ニ盡ス可キ也何ソ多言ヲ事トセン士君子能ク此ノ要道ヲ修ムルヒハ則チ彼レノ文教ヲマタズシテ而吾カ大本立ツ其已レヲ修メ人ヲ治ムルニ於テ思ヒ半ニ過キン其説左ニ挙ク

○孟氏曰学問之道無他収其放心而已トソレ放心ヲ求ムルヒハ則善心存ス善心存スルヒハ則百事成スヘシ古ノ人皆能ク心ヲ以テ心ヲ治ム固ヨリ文教ヲマタス是レ身ヲ修メ人ヲ治ムルノ大本ナリ固有ヲ以テ固有ヲ修ムルノ道此ニ本ツク夫レ放心ヲ求メ善心存スルヒハ則四端ノアル所ヲ知テ而シテ之ヲ擴充スルヿヲ得ルナリ又曰惻隠ノ心ハ仁ノ端ナリ羞悪ノ心ハ義ノ端ナリ辞譲ノ心ハ禮ノ端ナリ是非ノ心ハ智ノ端ナリ凡ソ我ニ四端アルモノ皆擴メテ而之ヲ充ルヿヲ知レハ火ノ始テモヘ泉ノ始テ達スルカ如シ苟モ能ク之ヲ充テバ以テ四海ヲ保ツニ足リ苟モ之ヲ充タサレハ以テ父母ニ事ルニ足ラス其端トハ内ニ誠アツテ而外カニアラハルヽモノナリ信其中ニ存スル四端ハ即チ四徳ノ實ナリ根本ナリ是レ天ノ吾ニ賦與スル所ノモノニシテ而之レ有レハ生キ之レ無ケレハ死ス文教ヲマタズシテ固有ノモノ也是レ人ノ至寶也自カラ珍トシ自カラ寶トシ鬼神ノ如ク菩薩ノ如ク之ヲ尊ミ之ヲ信ジ君父ノ如ク妻子ノ如ク之ヲ敬シ之ヲ愛シ金ノ如ク穀ノ如ク之ヲ貯ヘ之ヲ藏シ用ユル節アリ施ス度アリ玉ノ如ク劔ノ如ク又鏡ノ如ク之ヲ磋シ之ヲ磨シ之ヲ養ヒ之ヲ守テ失ハスンバ火モヤク能ク水モ溺スル能ハス盗賊モ窺フ能ハス貧窮モ奪フ能ハス威武モ屈スル能ハス貧富モ移スル能ハス之ヲ以テ君ニ事レハ忠臣タリ親ニ事レハ孝子タリ夫ニ事レハ貞婦タリ兄ニ事レハ順弟タリ友ニ交レハ信友タリ君之ヲ用ユレハ仁君タリ父之ヲ用ユレハ慈父タリ夫之ヲ用ユレハ和夫タリ兄之ヲ用ユレハ愛兄タリ之ヲ身ニ施セハ身修マリ家ニ施セハ家齊ヒ國ニ施セハ國

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

治マリ天下ニ施セハ天下平ナリ是ヲ之レ人倫ヲ明ニスト云天地ヲ貫ヌキ古今ニ通シ身ノ至寶國ノ大寶豈之ニ過ルモノアランヤ大ナル哉四端至レル哉四徳蓋シ四端ノ要之ヲ擴充スルニアリ之ヲ充メザル一身ヲ守ルニ之ラス事ノ至近トイヘ共能ク成スコト能ハス之ヲ充レハ四海ヲ保ツニ之事ノ至遠トイヘ共及ハサルヲ憂ヘズ其發見ノ端ニ因リ自ラ思ヒ自ラ察シ日ニ新ニ又日ニ新ニ是ヲ勤メ之ヲ修メハ則チ文教ヲ待タズメ自ラ余師アラン之ヲ養フ時ハ則チ身ヲ修メ國ヲ治メ天下ヲ平ニスルニ於テ何カアラン蛮夷戎狄固ヨリ恐ルヽニ足ラス其皇國心トハ何ニソ即チ四端ノ心ナリ

心豈別アランヤ然リトイヘ共分ケテ其切ナルモノヲ言フ時ハ則チ正直ノ心ナリ是レ惡ノ心ナリ是レ文武両徳ノ因テ生スル所ニシテ而已レヲ修メ人ヲ治メ強暴ヲ化シ四夷ヲ畏服セシムルノ根元ナリ髄脳ナリ深厚ニ翫味スヘシ此心ヤ能ク吾カ神皇ヲ尊フコヲ知リ能ク吾祖宗ヲ尊フコヲ知リ能ク吾カ君ヲ尊フコヲ知リ能ク吾カ親ヲ親シムコヲ知リ能吾カ夫ヲ敬スルコヲ知リ能ク吾カ爭ヲ忘スルコヲ知リ能ク吾カ妻ニ刑スルコヲ知リ能吾子ヲ慈スルコヲ知リ能ク吾友ニ信アルコヲ知リ能ク吾カ身ヲ律スル所以ヲ知ル故ニ能ク吾カ不仁不義ヲ恥ルコヲ知ルナリ是ヲ以テ能ク吾カ文徳ヲ修ムル所以ヲ知ル又能人ノ不仁不義ヲ悪ムコヲ知リ又其汙辱ヲ吾ニ受ルコヲ恥ツルヲ知ル故ニ能ク吾カ武義ヲ養

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

フ所以ヲ知ルナリ又能ク此心ヲ推シテ以テ人ニ及ホス所以ヲ知ル能ク人ニ及ホス所以ヲ知ルモノハ是非ノ心ナリ之ヲ知リ之ヲ行フ所以ノモノハ一ナリ一トハ誠ナリ誠ハ則チ正直ノ心ナリ五ロ國ヤ地靈ニ人傑ニ四德共ニ他ニマサリテ而モ其能ク自然ニ行事ニアラハレ天下安キモノ見ルヘシ惻隱ト辭讓トハ固ヨリ其中ニ存ス君ニ上ニ之ヲ行ヒ臣民下ニ之ヲ則トリ賢者能ク效ラフ皆自カラ修ムルナリ夫レ言語ヲ以テ人ヲ教ユルモノハ抑モ未ナル哉是天朝文ヲ言ハズメ而大ニ文德存スル所以ナリ之ヲ眞文ト云夫レ文德愈ツ一無シトイヘ𪜈天下ニ四夷有リ國ニ四隣有リ家外ニ家有リ身外ニ人有リ吾レ行カサルモ彼レ來リ犯スヲ如何セン又吾カ德義ニ從ハサルヲ如何セン之ヲ防キ之ヲ討スルニ無クンハ則吾カ國家ヲ敗ブリ吾カ祖宗ヲ辱シメ又吾カ人民ヲ害セン其汙辱ヲ受ルニヲ恥ヂ彼レノ不義ヲ惡ムニヲ知リ吾カ人民ノ害ヲ受ルニヲ憂ヒ之ヲ防キ之ヲ討セント欲スルモノハ義心ナリ之ヲ防キ之ヲ討スル所以ノモノハ武ナリ武ハ義ノ發ナリ故ニ武無キ時ハ則一身ヲ守ルニ能ハス況ヤ天下ニ於テヲヤ是レ人ニ武ナクンハアル可カラサルユエンナリ人ニ上タル者ハ士ナリ士ニシテ武德ヲ備ヘスンハアル可ケンヤ書生武ヲ學ハス然レモ亦武ヲ云フ者アリ是レ其心ニ武無キヲ恥レハナリ其實ハ武ヲ知ラズ故ニ武義ノ心ナキナリ是ヲ以テ其言幻影ノ如シ古人曰兵ハ人ノ爪牙ナリトハ夫レ禽獸爪牙アリテ以テ其身ヲ守ル人ニ兵ナクンハ有ル可ケンヤ是レ身ヲ離スヘカラサルユエンナリ近キハ刀遠キハ槍甚タ遠キハ弓銃甚タ近キハ拳之ヲ用ユルノ術學ハスンバアルヘカラス其執ル所ノ器モ亦精シウセスンハアル𪜈ケンヤ之ヲ身ニ備レハ強暴

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

懼レ之ヲ家ニ備レハ盗賊窺ハズ之ヲ國ニ備レハ隣敵入ラズ之ヲ天下ニ備レハ四夷犯スヿ能ハズ其之ヲ備フル所ノ術講セスンハ有ルベカラス其用ユル所ノ士卒モ亦訓練セスンハアルヘケンヤ備テ而用ニザル是レ武ノ本義ナリ備ヘザルキハ則國威立メズ士氣亦振ハズ好テ用ユレハ則國危ク身モ亦亡ス備ヘテ而用ヒザルハ是レ大ニ用ユルユエンナル哉是ヲ神武ト云夫レ武ハ天地ノ義心ヨリ生シ勇ニ依テ行ハレ仁ヲ以テ成ルモノナリ故ニ其終リ不殺ニ帰ス蓋

國昧無窮ニ由ル、所以ナリ文武一ヲ廢スルキハ則人道立タズ仁義存セズ天朝武ヲ以テ国ヲ建ル所以ノモノハ是ヲ以テナリ文ハ天地ノ仁心ヨリ生シ禮ニ依テ行ナハレ義ヲ以テ成ルモノナリ故ニ其終リ條理立テ而上下ノ分定ル是吾カ

國昧無窮ニ由ル、所以ナリ文武一ヲ廢スルキハ則人道立タズ仁義存セズ故ニ武ニ偏ナレハ則チ威カニ任シテ而人心服サス文ニ偏ナレハ則チ怯弱流レテ而國勢振ハズ共ニ禍亂ヲ致シ廢亡ヲ招クノ道ナリ真文内ニ行ハレ神武外ニ拳ル是吾カ

神皇天地ヲ經緯シ萬世ヲ綱紀シ國體之尊嚴大天下ニ冠絶スル所以ナリ士タルモノ能ク此大道ヲ明カニシ天朝ヲ尊トヒ

神皇ヲ敬ヒ神武ヲ養ナヒ真文ヲ修メ入テハ則孝出テハ則忠治ニハ則輔弼トナリ亂ニ則チ城トナル然後以テ士道ヲ盡スニ足ル夫文モ武ナケレハ立タズ武モ文ナケレハ行ハレス國ニシテ文武ヲ備ヘズンバアル可ケンヤ人モ文ナケレハ暴武ナケレハ弱士ニシテ文武ヲ具ヘスンバ有ルヘケンヤ故ニ古ハ士必ス文武ヲ兼子官モ亦文武ヲ兼ヌ是レ治道盛ニ風俗美ハシキ所以ナリ夫文武ノ大本ヲ修メ文武ノ真理ヲ明ニスルキハ則大體立ツ然レニ其施ス所ヲ學ハサレハ則其用ヲ達スル

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

ノ能ハス**大用**ナケレハ則其**體**モ亦亡ス故ニ文武ノ兼学ハサルヘカラス則文武ノ真理モ亦明カニスルノ能ハス大本モ亦修ムルノ能ハス内外交ヽ養ニ小大無備リ然ル後本末體用欠缺ナカルヘシ

○学校ハ士大夫ヲ教養スル所以ナリ凡物養ヲ得ルトキハ則チ長シ養ヲ失フトキハ則チ消ス学校ナクンハアルヘカラサル所以ナリ**夫レ士大夫ヲ教養スル**所以ノモノハ何ソヤ曰治亂用ニ所有レハナリ治亂ノ用欠クルノ無メ而後以テ　皇家ノ藩屏タルヘキ以テ祖宗ノ事フヘク以テ士民ヲ撫安スヘシ然ル後邦家保モツ可キナリ是レ邦君ノ天職ナリ士大夫タルモノ能ク君命ヲ**奉**シ教令ニ從ヒ文ヲ修メ武ヲ勵マシ人倫ヲ明カニシ士道ニ達シ身ヲ致シ忠ヲ盡シ以其君ニ事ヘ以テ其所生ヲ厚シムルナキ是レ大夫ノ天職ナリ上下一心共ニ其天職ヲ修ムル是レ天地ニ報スル所以也夫レ士ノ養ナルノ道**放心**ヲ収メ四端ヲ擴メ人倫ヲ明ニスルヨリ先ナルハ無シ武文ノ芸ヲ修ムルヨリ急ナルハ無シ放心ヲ収メ四端ヲ充テ人倫ヲ明ニスルノ知ルトキハ則チ大體立ツ文学ヲ修メ武術ヲ講スレハ則チ大用達ス夫レ文学モ亦云ナリ武術モ芸ナリ其芸ニ長スル者ヲ撰ンテ之ヲ師トスルニ非サレハ人其能ヲ成スノ能ハス然リトイヘモ士人ヲ教育スルノ道之ヲ芸者ニ任スルトキハ則士人悉ク芸者ニナラヒテ而士風衰フ是レ世ノ名士ニ乏シク忠孝節義ノ士鮮ナリ風俗美ナラサル由ナリ是故ニ儒學ヲ爲スモノ**儒者**ニナラヒテ書生ノ如ク或ハ漢土ヲ尊ンテ天朝ヲ卑シミ背ニ孔孟ヲ負テ君父ヲソシリ或ハ詩文ニフケリ文學シテラウテ以テ人ニヨゴリ其身文弱ニシテ**武用**ニ當ラス或ハ猥リニ大言ヲ出シテ而其行ヲ顧リミズ**或**ハ言行ラカザリテ以テ姦悪ラナシ口ニ仁義ヲ説テ舍貝利ヲ事トス其陋劣柴テ言フベカラス武藝ヲ習フモノモ亦然カリ馬術ヲ学フモノハ馬ノロウノ如リ剣術ヲ習フモノハ剣術ツカヒニ似タリ其餘モ亦之ニ類ス故ニ馬術ヲ講スルモノ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

専ラ花法ヲ事トシテ軍陣ノ實用ヲ辨ゼス或ハ尾筋ヲ斷チ或ハ口之筋ヲ切リ
以テ之ヲ妻スルニ至ル劍術ヲ學フモノ其身ノ今度ヲハカラズ其帶スル腰刀如何ニヲ
モ顧リミス猥リニ長竹刀ヲ提サゲ且ツ其竹刀輕軟ナルコト麻ガラニ似タリ竹甲
ノ如キモイタヅラニ觀美ヲキハメ奪リニ席上ノ勝負ヲ爭テ實用ヲ論セス又慢リ
ニ非禮ノ挑聲ヲ發シテ士ノ禮法ヲ失ヒ又或ハ高遠ニハセテ氣合ト稱シ空理
ヲ談シ實用ヲワスレ其ノ藝軟弱ニシテ武用ニ給セス其餘此類猶多シ近世洋學
ヲ講スルモノ其害又更ニ甚シ西洋ヲ尊信スルコト嚴師ノ如ク慢ニ奇巧ヲテラヒ功
利ヲ談シ其言語ヲ習ヒ風俗ヲシタヒアタカモ蠻夷ノ奴隷ニ異ナラス是レ
ノ鄙夫又其兵技ヲ講シ以テホシヒマヽニテ、ニ
天朝神武ノ道ヲ蔑視シ風俗ヲヤブリ人心ヲ乱リ邦國ノ深患ヲ爲ス信ニ長
嘆息ヲ發スヘシ夫レ儒生劍客馬保洋學者ノ徒其身遊民ナラサルモノ鮮シ

故ニ士君子ノ道ヲ知ラス又君臣ノ大義ヲ辨セス故ニ士道ノ實學ヲ修メズ軍陣ノ實
用ヲ講セス偏ニ言ヲ巧ミニシテ以テ人ヲ欺キ色ヲヨクシテ以テ世ニ論ラヒ其
術藝ヲ高ナツテ以テ利ヲ貪ボリ人ヲタブラカスノミニシテ以テ世ヲ渡ル是ヲ以其心
術商人ノ如ク又出家法師ノ如ク又乞丐ニ似タリ堂々タル士大夫何ソ此ノ
商人法師乞丐ノ輩ニナラハニヤ誠ニ恥ツヘキノ甚シキニアラスヤ故ニ士ヲ教養
スル道アリ大夫士ノ官ニアリ文武ノ才アリテ吏務ニ達シ心術正シク行狀方タニ
諸士ノ師表ト爲スニ足ル其人ヲ擇ンテ之ヲ用ユ其尤モ優ナル者ヲ總裁ト爲シ
其次ナル者ヲシテ之ヲ輔助セシム重ク此両官ニ任シ文武ヲ勵マシ大道ヲ明ニ
シ教道ノ要領ヲ提サケ學校ノ諸政ヲ謀議シ士風ヲフルヽ風俗ヲ正スヲ以
テ其職ト爲シ其藝術ノ如キハ其ノ術ニ長スル者ヲ以テ藝師ト爲スヘシ是
レ皆總裁輔助ノ令ヲ受ケシム儒者武術者博士ノ類是レナリ又監察

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

ノ官ヲ置キ其非違ヲ正シ勤惰ヲ改メ賞罰ヲ明カニスヘシ如此ナルキハ則
文武偏セスベソ士風フルフベソ風俗正スヘク人倫モ亦得テ而明カニスヘシ然ル
後治乱用ラヘキナリ必ス文武一致ノ主意ヲ貫通スヘシ是レ其要道ナリ書ハ
言ヲ盡サズ運用ノ妙其人ニ存ス其節目ノ如キハ國ニヨリ時勢ニ隨ヒ大ニ損
益アリ預シメ論シ難シ夫レ学校ハ政事ノ得失士風ノ美悪國ノ安危ノ係
ル所ナリ深ク思ヒヲ致サスンハアルヘカラス儒生ノ腐言ニ迷フナクンハ是レ其國家
ノ大幸ナラン諸國ノ学校其制一様ナラストイヘドモ大凡儒者ノ主張スル所也
故ニ文事餘リ有テ武事ニ乏ラス文武一致ノ主意ニ戻リテ而又其剣唐土ニ
效ラフ因テ吾
國ノ士風ニ害アリ然リ而文学モ亦終ニ振ハズ辨セスンハアルヘカラス

◯学校中聖堂ヲ建テ仲尼ヲ主ニシ思孟十哲ノ徒ヲ配祀ス是レ大ニ浮屠氏
ノ佛像ヲ安置シ而維漢ヲ列スルニ似タリ彼ノ三代ノ盛ナルヤ王宮國都ヨリ閭巷ニ及ヒ
学有ラサルコトナシト然而ニテ未ソ此ノ如キ怪物有ルコトヲ聞カス是レ後世浮屠氏ノ
大ニ佛堂ヲ建テ盛ニ供具ヲ設ルヲ見テ陽ニ之ヲ挑撥ストイヘ共心陰ニ之ヲ羨ヤ
ミ覚ヘズ彼ニ效ラフモ亦知ルヘカラス為ニ一笑ヲ發スヘシ夫レ学校仲尼ノ徒ヲ
祭ル唐ニ始ル其後宋元明清之ニ因ル皆仲尼ヲ尊崇スルユエンヲ知ラス却テ之ヲ
玩弄スルニ似タリ司馬遷世家ニ列スルハ惑ヒナリ唐ノ王ニ封スルハ過ナリ後世慢リ
ニ牺牲ノ文字ヲ加フルモノハ論フナリ或ハ画像ト為シ或ハ塑像ト為シ又ハ神牌
ト為ス何ノ暦代ノ諸賢定説ノ無キヤ其妄モ亦笑フヘシ且ツ え清ノ之ヲ祭
ルハ尤モ笑フニ堪タルモ仲尼モシ知ルコアラハ何ソ え清ノ封号ヲ受ンヤ何ソ
其祭リヲヨロコハンヤ然リトイヘドモ是レ異邦ノ事ニシテ吾アツカル所ニ非ス餘談ノ
ミ夫レ仲尼聖トイヘドモ思孟賢トイヘドモ異邦ノ人ナリ如何ンソ吾カ文武

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

ヲ修メ吾大道ヲ明ラカニスル学校ニ於テ之ヲ祭リ吾カ
神皇ノ赤子ヲシテ異邦人ヲ尊崇葬祭セシムルニ忍ビンヤ苟モ吾皇國心ヲ
存スルモノ誰カ之ヲ快ヨシトセンヤ深ク思フヘシ深ク思フヘシ夫レ道ナルモノ
天地ノ道ニシテ而固ヨリ定形ナシ何ニソ古今彼我ノ別アランヤ彼ノ文教ノ
如キハ即チ能ク吾カ
神皇不言ノ至教ニ符合スル是レ
先皇取テ而之ヲ用ヒ玉フ所以也人ナルモノハ各其國ヲ國トシ各其君ヲ
君トシ各其父ヲ父トシ而皆定制有リ是ノ故ニ己レノ父ヲ遺スレテ而人ノ
父ヲ敬ヒ己レノ君ヲ後ニシテ而人ノ君ヲ尊トヒ己ノ國ヲ外ニシテ而人ノ
國ヲ内ニシ己レノ国神ヲ捨テ而異國ノ神ヲ祭ル是ヲ悖徳悖禮ト云
又其鬼ニ非スメ之ヲ祭ルニアラスヤ其道ニ及スルヤ甚シクメル天下何ンソ
之ヲ不辨ヤ信トニアヤシムヘシ

○吾カ

國上下佛像ヲ禮拜スル是レ亦異邦ノ人ナリトイヘ共士君子大道ヲ修ムル大道
場ニ安置シテ之ヲ拜スル所以ノ意味尤異ナリ故ニ佛像ヲ
寺閣ニ拜シ家廟ニ拜スル如キハ當時同フ所ニ非ス孔孟ノ徒モ亦其私塾
ニ祭リ私ニ拜スルハ亦同フ所ニ非ス然レ共吾カ皇國心ヲ存養スル所以ニ於テハ害
ナキニ非サル也近世洋學ヲ學ヒ洋兵ヲ講スル者洋人ノ傑雄ナルモノヲ図画
シ壁間ニ置クモノアリ其人ハ之ヲ欽慕スルトイヘ共餘人其室ニ入ルキハ則甚ソ
以テ快ヨシトセス況ンヤ之ヲ禮拜スルニ忍ビンヤ白面ノ書生トイヘ共猶ヲ之ヲ
快ヨシトセサルヲ知ル是レ其良心ナリ漢土天竺ノ人物ヲ図画スルモノニ至テハ
一偏ノ武人トイヘ共之ヲアヤシマス是レ四習ニナルレバナリ蓋シ西洋ノ醫術器

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

工兵技ノ類国用ニ給セストスヘカラス且ツ大小銃礮ノ如キハむそ守國ノ要
器ニシテ而和銃ト称スルモノモ亦其始メ西洋ヨリ來ル所ナリ然ルニハ之ヲ
作述スル洋人ヲ尊信スルモ亦其譴レ無キニ非ス然リトイヘ氏義ニ於テ没
シテ之ヲ尊崇禮拜スヘキニ非サルヿ明カナリ夫レ孔孟ノ聖ト西洋ノ
英雄ト又其技術ト文教ト固ヨリ同ニシテ論スヘキニ非ストイヘ氏其
技其術ヲ欽慕シ其能ニ感シ其徳ニ報ヒント欲スルノ心ヲ以テ之ヲ尊崇スル所以ノ理ニ於
テハ大異アルニ非ス故ニ孔孟ヲ祭祀スルヲ以テ邦家ニ害ナシト為スニハ則洋人ヲ
祭ルモ之ヲ禁スルヿ能ハサルノ理ナリ且ツ上天ヨリ之ヲ大観スルニハ則全世界一
天地ニシテ而人民モ亦一天地中ノ人民ナリ豈彼我ノ異アランヤ人道ヲ以テ之ヲ
見ルニハ則各々其國ヲ国トシ其君ヲ君トシ其人民ヲ人民トシテ而各ニ區別
アルヿ也故ニ彼ノ二帝三王トイヘモ其国ヲ中國中夏ト稱シ外国ヲ蛮夷戎
狄ト呼フ是レ聖聖ノ深意ニ出テ而深リ天下後世ヲ憂フル所以ナリ然ルニ非
ラスンハ爲ニノ聖賢ニシテノ自ラ尊大ニシテ人ヲ禽獣ノ如ク軽倫スルノ理アランヤ
深急フヘキナリ故ニ孔孟ヲ祭ラサルハ即チ孔孟ノ道ナルヿヲ諺スヘキナリ夫レ
孔孟ヲ學テ而孔孟ニ事フルニ非ス孔孟ヲ学テ以テ能ク吾カ
国ヲ尊ク能ク吾
神皇ヲ敬ヒ能ク吾ノ君ニ事ヘ能ク吾カ父母ニ事フヿ是ヲ能ク孔孟ヲ學フモノ或ハ徒ラニ其空文ヲ誦シテ而其実意ヲワスレ孔孟
ルヿヲ知テ君父アルヿヲ知ラス漢土アルヿヲ知ラス天朝アルヿヲ知ラス皇神アルヿヲ知テ而古典ヲ修ムルヿ
ヲ知ラス文學ヲ語スルヿヲ知テ而吾カ神武ノ道ヲ修ムルヿヲ知ラス故ニ皆

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

ニ孔孟ヲ頁ラ而君父ヲ非議シ彼國ヲ内ニシテ而
天朝ヲ外ニシ売淫ヲ営業トシテ而
神皇ヲ蔑視シ又甚シク孔子ノ徳ヲ称スルヲ知ラス
神皇ノ大徳ヲ稲揚スルヲ知ラス終身空文ヲ誦シテ而自カラ儒者太ニシ公卿ニ驕リ士大夫
ルノミニ非ス或ハ臣々ノ文ヲ飾ラシテラツテ以テ自カラ儒者太ニシ公卿ニ驕リ士大夫
ヲ慢トリ且ツ巧言令色貪利汙穢モ亦至ラサル所ナシ然而又恣ニ邪説ヲ唱ヒ
妄言ヲ発シテ而人ヲアヤマリ風俗ヲ害シ大道ヲ壊ル其罪豈浅々ナランヤ小人
玉ヲ抱テ斯ニ罪アリトハ是ノ謂ナル哉是レヒトリ
神皇ノ罪人ノミニアラス即チ又孔孟ノ罪人ナリ夫レ如此ノ罪人其余猶サカラストイ
ヘ共深ク孔孟ヲ学フ者ヲ責ムル所以ノモノハ之ヲ悪ミ之ヲ外ニスルニ非サルナリ之
ヲ内ニシ之ヲ信シ又大ニ之ヲ用ヒントト欲スル所以ナリ如何トナレハ則孔孟ノ道大ニ
神皇ノ大道ニ符合スル故ニ能孔孟ノ道ヲ修ムル者ハ則
神皇ノ大道モ亦能ノ明ニスヘキナリ
神皇ノ大道明ナル時ハ則佛者ノ虚誕陰学ノ偏見洋学ノ巧言有リトイヘトモ鳥ソ人
心ヲ蠱惑スルヲ得ン鳥ソ大道ヲ壊乱スルヲ得ンヤヲ
カスシテ自ラヒラケシソソケズシテ自ラ潰ヒン是レ吾カ深ク孔
孟ヲ学フ者ヲ責ムル所以ナリ子思曰仲尼堯舜ヲ祖
述シ文武ヲ憲章シ上ハ天明ニ律リ下ハ水土ニ襲ル是レ仲尼終身ノ徳業ヲ述
ルニ非ンヤ夫仲尼ハ漢土ニ生レテ而周代ノ人ナリ故ニ堯舜ヲ祖述シ文武ヲ憲章シ
漢土古今ノ天時ニ律リ漢土東西ノ水土ニ襲ル是レ仲尼ノ大徳ト為ス所以ナリ儒生空文
ヲ誦シテ而其意ヲ得ス孔子ヲ学ヒテ而孔子ヲ知ラス此語ノ如キハ則孔子終身ノ徳業
ヲ記スル一ノ言ニシテ而甚タ要語ニ非スヤ苟モ孔子ヲ学フ者深ク心ヲ用フヘキ所ナリ然而此語

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

ヲ解シ得サルハ何ソヤ之ヲ亡日儒陋生ト云フモ豈過言ナランヤ且ツ世人之ヲ儒者ト称シテ而自カラ其名ニ安ンスルハ是レ既ニ吾皇國心ヲ失フ者ニアラスヤ苟モ皇國心ヲ存スル者儒者ト呼ハレテハ則チ一日モ其心ニ安ンセラルヘケンヤ　皇國ニ生レテ皇國心ヲ存セサルモノ之ヲ何ト謂テ可ナランヤ思ハサルノ甚シキニアラスヤ夫レ吾國人ニテ能ク孔子ヲ学ヒ能ク此要語ヲ解スルキハ則チ其身　皇國ノ人也　皇國ニ生レテ　皇國ノ人也

然レハ則仲尼ノ堯舜文武ヲ祖述憲章スル如リモ　皇國ノ天時ニ律リ　皇國ノ水土ニ　神皇ノ大徳ヲ祖述憲章スヘキニ非スヤ又

孰レカ非ヲ是ヲ之レ能ク孔子ヲ学フトスヘシ儒生多ク之ヲ知ラスメ而猥ニ異邦ノ堯舜文武ヲ祖述憲章スルト欲シ又猥リニ彼國風ニ效ハントト欲ス何ソ夫レ亡日昧ナルヤ幼ヨリ老ニ至ルマテ此語ヲ誦シテ而其意ヲ得サルキハ則其餘聖謨賢範亦タ得サル事知ルヘキナリ故ニ終身空文ヲ誦スルモ又豈ニ亡女語ナラ

ニヤ為メニ思スヘシ

○水府ノ學術大ニ其要道ヲ得テ而天下能ク及フ者鮮キ所以ノモノハ全ク義公英明ノ致ス所ナラン豈ニ之ヲ傳信セサランヤ然リ而メ其学校　武衛雷命ト仲尼ト孔ヲ祭ラル其意文武ノ二神ヲ置クニ非ストイヘトモ其形ハ則文武ノ二神ヲ置ニ似タリ其弘道館ノ碑文中文武岐セサルノ語アリ然而メ文武ヲ二ニスルニ嫌ヒナキニアラス而又仲尼ヲ祭ラルヽハ是レ未タ俗儒ノ臭気ヲ免カレサル所アルカ且ツ聞ク公ノ腹心何某ノ撰スル書中ニモフト国学者ト称スルモノ慢リニ儒ヲ排擯スルハ即チ五カ

先王ノ典ヲ議スルセト彼ノ國学者ノ徒慢リニ儒ヲ排スルハ固ヨリ不當ノ激言トイヘトモ水府公ノ佛ヲ排擯セラルヽニ亦國学者ノ儒ヲ排スルカ如シ佛モ亦

先王大ニ之ヲ用ヒ玉ヒ或ハ王法ト佛法ト并ヒ行スル如キニ至ル然レハ則佛ヲ議

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

スルモ亦

先王ノ典ヲ議スルニ非スヤ

先王ノ典ヲ議スルシテ国学者ヲ責ムルハ則水府公モ亦

先王ノ典ヲ議セラルヽノ責ヲノカレ玉フヘカラス夫レ儒者ノ佛ヲ悪ムヤ寃讎ノ如シ故ニ其攻撃カヲ窮ハム之ニ依テ自ラ其言ノ過ツヲ知ラサルナリ

水府ノ人モ亦佛ヲ悪ムヿ儒者ニ似タリ是故ニ儒ヲ排スルノ

先王ノ典ニ纏ルヽヲ知ラス是レ未タ其胸中俗儒ノ気臭ヲ免カレ

先王ノ典ニ纏ルヽヲ知ラス是レ未タ其胸中俗儒ノ気臭ヲ免カレ

サルノ證ト為スヘシ彼佛国ヨリ蛮夷ノ一法ニシテ而大道ニ背ムク宜ク

ノ排擯スヘキナリ儒ハ大ニ

先王ノ道ニ符合スト雖モ亦異邦ノ教ナリ悉ク之ヲ吾カ

国ニ用ユヘカラス故ニ

先王佛ヲ用ヒ玉フノ弊終ニ禍乱ヲ生シ儒ヲ用ヒ玉フノ弊終ニ

皇家ノ衰弱ヲ致ス深ク鑑セスンハアルヘカラサルナリ夫レ

先王ノ典ヲ議スル其罪浅ニアラストイヘモ苟モ臣民タルモノ

後王ノ政典ニライテ上古ノ

神皇極ヲ立教ヲ垂レ玉フノ神意ニ不合シテ而邦國ニ害アルモノ謹テ

之ヲ議スルハ憂國ノ誠心已ムヿヲ得サル所ナリ是則

神皇ヲ尊ヒ　皇家ヲ敬ヒ　國恩ニ報ユル所以ナリ然ハ則其議スル

所ノ當不當其心ノ誠不誠ヲ論スヘクシテ而徒ニ其議スルヲ以テ其人ヲ

罪スヘカラヴルナリ

(一)夫レ学校主神ヲ置サルモ亦何ノ妨カアラン其邦君自カラ能ク其徳ヲ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

慎ミ其道ヲ修メ眞ニ文武ヲ勵マシ士民ヲ愛養シ實ニ其天職ヲ盡サン
ト欲スルノ誠心ヲ以テ主神ト爲シ總裁輔助ノ官其人ヲ得ルヲ以テ配祀
ノ神ト爲サバ何ソ文武ノ起ラサルコトカアラン何ソ士風ノ振ハサル
ノ風俗ノ正シカラサルコアランヤ然ルキハ則孔孟十哲ノ塑像ヲ安置スルニ勝ル
コト萬々ナラン・モシ人君其德ヲ愼マス其道ヲ修メス眞ニ文武ヲ勵シ士民ヲ
愛養スルノ誠心ナクシテ而シテ自ラ其天職ヲ盡サヌレ總裁輔助ノ官亦其人ニ非ス
ンハ則千百ノ孔孟十哲ヲ羅列スルモ亦何ノ益カアラン是レ誠ニ緊要大眼
目學校ノ興廢文武ノ盛衰士風ノ美惡國ノ安危悉ク關係スル所ナリ實ニ
深思熟慮スヘキノ第一ナルモノニ非スヤ書曰心誠ニ之ヲ求ムル中ラストイヘル遠
カラス是レ先賢ノ格言身ヲ修メ人ヲ治メ萬事ヲ成ノ根元ニシテ而實ニ聖賢心法
ノ極致ト云ヘシ故ニ之ヲ求ソサルヿ不能ハ一羽ヲ擧ルヿ不能ハ薪ヲ見ルヿ不能ハ心
誠ニ之ヲ求ルキハ泰山ノ高キニ登ルヘシ万里ノ遠ニ至ルヘク匹夫ニシテ天地ヲ動カス
ヘシ鬼神ヲ感スヘキセ何ニソ事ノ成ラサルアランヤ其心誠ニ之ヲ求ムルニアルノミ心誠ニ
之ヲ求ルニアルノミ夫レ學校主神ヲ置サルヿ固ヨリ妨ケナシトイヘドモ・モシ或ハ主
神ヲ置カント欲セハ吾カ
八幡大神ノ如キハ武門ノ守護神ト称スルヿ久シ又文教ノ吾
國ニ入ルハ
大神之ヲ聞キ玉ヒハ文武兼備ノ神ト稱スルモ亦妨ケナカランカ夫レ邦君ニテ
天子ヲ祭リ士大夫ヨテ之ヲ拜セムルハ僭上ニ似タリトイヘドモ五
國風ニ由ルキハ則敢テ非禮ト爲スヘカラス又其祭ル所ノ主意モ異ナレハナリ且ツ古
昔ノ名賢義臣手命道臣命日本武尊武内大臣大織冠藤公和気清麿
菅原相公藤原藤房楠父子其餘忠臣孝子ノ世ニ顯然タルモノヲ撰ニテ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

之ヲ祭ル、今日臣子ノ竜鑑トナリ日夜之ヲ敬慕セハ士道ヲ修ムルニ於テ其益甚大ナラン然リトイヘドモ是亦事ヲ好ムニ似タリ之レ無キノ勝レルニハ如カズ只其國祖宗ノ神靈ヲ迎ヒ歳首開業ノ日謹テ神酒ヲ供シ其邦君自カラ其席ニ臨ミ先ツ神酒ヲ嘗メ大夫ヲシテ次ラシテ之ヲ賜ハルノ類吾国風ニ應シ武門今時ノ時宜ニカナハンカ夫レ邦君ノ教令ニ從フ皆是レ祖宗エ事フル所以ニシテ又其ノ祖宗ノ神靈モ降臨シ共ニ邦君ノ教令ヲ助ケ玉フヘシ之ヲ穏當ト為サンカ

○学校ニ具フル藝術左方ニ列ス是レ其大畧ナリ士固ヨリ悉ク之ヲ修ムルヲ能ハストイヘドモ其材ニ依リ其分ニ應シ実用ヲ取リ急務ヲ先ニシ虚文ヲ舎テ花法ヲ後ニシ其精力ノ及フニ隨ヒ之ヲ學ヒ之ヲ勤メハ身ヲ修メ人ヲ治メ其職ヲ守リ其分ヲ盡シ以テ国家ノ大用ニ當ルニ足ラン其ノ及ハサルモノトイヘドモ其身ヲ守ルニ余地アラン カ

天朝武ヲ崇ンテ武藝ハ士ノ急務ナリ且ツ天下亂レハ則文道衰フ故ニ亂世ニハ文ヲ與スヲ以テ務ト為シ天下治レハ則武道衰フ故ニ治世ニハ武ヲ奮フヲ以テ先ト為スヘシ是レ時ヲ救フノ実務ナリ故ニ先ツ武術ノ目ヲ擧ク

劍術 平常非常共ニ尤急務ナルハ固ヨリ矢スルヲマテモアラス

馬術 常非共ニ當用ナル一言論ヲマテモアラス馬上劍槍弓銃水馬ノ類ヘ兼習スルヲ要ス

槍術 常非共ニ當用ナリ

砲術 軍中第一ノ要器ナル一固ヨリ論ヲマテモアラス士卒共ニ用ユ平常モ其用意シ

弓術 砲術ニ次ノモノハ時勢ノ變アリ半弓ノ如キ努ノ類モ用ユヘシ

柔術 和カ捕手 常非共ニ其用近シ又筋骨ヲ鍛練スルノ益大ナリ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

長刀　槍ニ類シテ亦利器ナリ
長巻　長刀ニ類シテ歩士ニ利アリ
居合腰廻　其用亦近シ
水練　習ハスンハアルヘカラス
鏢　槍ニ類シテ水戦ニ利アリ
手裏劔　銕扇　銕鞭　具フルニ益アリ
棒　十手　縄　三道具　歩卒ノ当用宜シク講習スヘシ
飛槌　賊ヲ擒ニスルニ利アリ　歩卒ノ用ニテモ益アリ
角力　建歩　疾走　其益小ナラス

右士卒ノ急務ナリ且ツ平常非常草騎草身ノ覚悟并甲冑弓銃鉛薬火薬嚢水筒草鞋ニ至ルノ器械其制法用法ヲ糸シ弓馬ノ古実戎馬ノ調練軍禮軍語及ヒ攻城野戦先登後殿斥候等ノ術ニ至ル迄之ヲ講窮シ事ニ臨テ不覚ヲ取ラサルヲ要ス

将器　附吏術　兵賦　操練
営陳　城制　附守法攻法　戦法　行軍
水戦　輜重　運粮　戦略　海防
右武術ノ大ナル者ニテ深ク思ヒヲ致スヘシ且ツ大統大営金鼓旗幟舩制
楯制ヨリ攻具守具ノ類ニ至テ其制法用法宜シク練熟スヘシ
素讀　文字ヲ知ルヲ主トス　講義　文義ヲ解スルヲ主トス　筆學　文字ヲ書スルヲ主トス
通用文字　常用書札ノ類学ハスンハアルヘカラス
躾方　伊勢小笠原等ヨルヘシ　君父長者ノ前容應對ノ礼進退送迎ノ節ヨリ使者ノ周旋奏者ノ投露其餘ノ細事士林當用ノ事演習スヘシ　傳者ノ往之ヲ俗禮ト賤シテ學フニ足ラストスルフモノハ実務ヲ知ラサルナリ當今之ヲ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

捨テ何ヲ取ラントスルヤ
思ハサルノ至リナリ

右士ノ當用ニシテ忽セニスヘカラサル者ヲ擧ケ論スルニ及ハス

算學　是亦當用ナリ
歌文　音樂　詩文章
右士ノ當務ニ非ストイヘ𪜈學フニ益アリ其心ニ任セテ可ナリ
經義　義理ヲ明ニスルヲ主トス　曆史　官職　制度　律令
格式　農政　水利　天文
地理
右文藝ノ大ナルモノナリ宜シク講究セスンハアルヘカラス然レ𪜈其用ノ先後緩急アルヲ免レス要ス以上學校ニ具フル諸藝術ノ大畧ナリ是レ皆吾カ身ヲ修ムルノ輔ケナリ豈

ナリ之ヲ用ユルモノハ人ナリ其人ノ身ニ主タルモノハ四端ノ心ナリ然ルニ其輔ヲ等閑ニシテ其主ヲ遺スレ其器ヲ先ニシテ而其人ヲ後ニスルハ大ナル惑ヒナリ是レ世ノ或ハ虛文ヲ誦シ虛武ヲ講シテ而大道ヲ遺スレ之ヲ輔ケル所以ノモノヲ以テ却テ之ヲ害シ又其用ユル所ノ器ノ為ニ役セラレテ而終身悟トラサル者アルユエンナリ思ハスンハアルヘカラス

神道者　國學者　武術者　儒者　諸博士　一ニ術ヲ講究シ其事ヲ專門ニスル者ヲ
醫者　内科　外科　本草家　牛馬科　僧者　心學者　洋學者　音樂者　画工
弓箭工　甲冑工　刀槍工　銃工　馬具工　切磋工
木工　金工　石工　革工　其餘猶有ヘレ
以上數者教エテ亦器ナリ士君子何ソ器ヲ事トセンヤ必ス大道文武ヲ修ムヘシ右條列スル如ク學校ニ具フル諸器全備スルニ似タリトイヘ𪜈固ヨリ国ノ大小ニ因リ又其時ニ隨ヒ宜シク損益取舍スヘシ必ス抱泥スヘカラス然レ𪜈其要道実務ヲ缺スル時ハ苦心造立スル（則）

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

所ノ学校ヲ終ニ無用ノ長物トナリ名有ヲ実ナキノミニ非ス又吏ニ甚タ害ヲ生スルニ至ル深ク察セスンハアルヘカラス

（一）経説ハ程朱ニ因ルヲ要ス盡リ善ヲストイヘ共亦其右ニ出ツルモノ有ルコトナシ

（二）國典ニ明カナラサレハ國実ヲ知ラス儒生吾ヲ外ニスルハ古典ヲ修メサルニ因ル故ニ必先ツ正史実録并ニ士林有用ノ書ヲ讀マレムヘシ又其國ノ憲法條目　幕府ノ典章法度ノ類熟讀セシムヘシ之ヲ知ラサレハ時務ニ應スル能ハス

（三）儒生或ハ刑政兵農ノ事ヲ以テ事功ト唱ヒ功利ト名ツケテ之ヲ排擯スルモノ有リ豈ニ遊民ノ流汎ナル故ニ士君子ノ道ヲ知ラサルナリ

（四）吾カ大道明カニ大本固キ時ハ則諸子百家佛學洋學皆ナ吾カ益ヲ為スニ足ル門戸ヲ建ツルニ於テハ偏ナラサルヲ要スルノミ

（五）夫レ放心ヲ収メテ而シテ端ヲ元ニハ則大本立テ而シテ大體明カナリ文武ヲ講シテ而シテ其術ヲ修ムルハ則枝葉具テ而シテ大用達ス然ル後人倫全キヲ得テ而シテ大道益明ナリ士君子能ク自カラ奮憤振興シ自ラ励マシ自ラ勤メ自ラ思ヒ自カラ苟クモ之ヲ修メ之ヲ明ニシ其職ヲ守リ其分ヲ盡シ自カラ彼ノ遊民乞丐ノ徒ニ笑ハレ、勿ランコトヲ欲スルニアリ豈ニ繄ニ一義狂言因テ発スルユエンニ也哉ニ能リ此道ヲ修メ以テ吾　皇國心ヲ存養セハ身ヲ保テ家国天下ヲ保ツニシイテ何ニカアラン強暴国ヨリ懼ルヽニ足ラス縦ヒ夷戎狄ヤ若シ之ニ反セハ一身保ツ能ハス家国天下モ亦危哉五ロカ

神聖ノ靈昭々テトメ上ニ在ス夫レ誰ヲ欺カンヤ其深ク察スルモノ能ク之ヲ知ラン其之ヲ愛ルヤ深シ故ニ其言切ナリ其意人ノ発憤ヲ欲スルニアリ故ニ其言励ス賢者其志ヲ察シ其狂ヲ咎ムルナリンハ幸甚ナラン干時嘉永二ヶ年己酉冬日也

海津城南狂夫　長谷川元亮　稿

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

以儒書為神書之注解
世稱熊澤伯繩為天資雄傑聡明絶倫文武兼備王
佐之才者非過稱也其言曰
天朝可稱神書者三種之神器是也上古無文字又
無圖書
神聖舉三種之象以示三德玉之温潤而光明象仁
鏡之靈明而能判善惡象智剣之剛武而能斷制象
勇猶易之卦象然也此三者天下之達德也是故以
三種之象為經傳則何神書過之矣然而可為三種

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

之注解者莫如彼中庸之書漢土之聖人亦猶
天朝之神也其德一也其道不二也故其冣其書如
合符節矣至哉言也信可以為
神州讀儒書之法則也矣能得其心而弘其意則以
可正人心以可整風俗以可明大道以可尊
國體以可遏乱賊以可服四夷而萬〻世可無憂也
矣吾切惜伯緬不詳盡其說以大示於天下後世也
蓋上古之
神聖緬天立極而上行為下效為至教存乎不言而

彝倫叙乎無為德輝照宇宙而功澤周萬世魏〻又
蕩〻而雖民無能名焉大道之存於其中之者昭
〻乎可觀也矣是亦乃無形之
神聖之道彝倫而已。矣彼聖人之教亦不過欲全彝倫
而已矣然則特非中庸之書可為神器之注解耳。彼六
經之書悉可以為無形神書之注解也矣注解者則所
以解本書之難解而弘其意之者也
神皇所以取聖教而用之〻意蓋正在此矣本書者
本而主也注解者末而客也世之講聖教者不能達

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

於
神皇之聖意而不知不言之際無形之中有神書之
歷然者而存猥以注解為本書是以失其本末悞其
主客故有不合於聖教者則不問其是非捨而不取
爲排而非爲何其惑也吾聞以本書正注
解者未聞執注解而議本書者也況捨本書而從注
解者乎差以毫釐則繆以千里其弊遂内漢土而外
神州崇堯舜而蔑
神聖捨吾水土之宜者而漫欲效於彼之邦俗是以
唱邪説発妄言傷人心壞風俗損
國體乱大道以為邦家之深患而聖教亦為之不明
將使
神皇之聖意委之於泥土信可為長嘆息也然而所以
國勢之陵夷不如漢土之甚之者則以
神聖之威德尚存幕府焉上之治尚盛耳矣夫
皇室之盛衰天下之安危風俗之汚隆萬民之苦樂
盡係於大道之明闇矣是吾所以日夜汲々切々思
闡邪妄明斯道而不安寢食也問乱大道者豈止儒

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

徒哉有佛徒之虛誕有俗学之偏見有洋学之巧言
有鄉原有利口又有在位之宴安有俗吏之苟且有
武人之無識有士林之游惰何不責之而獨儒徒之
深也曰然雖然吾所以獨責之者則非惡之疎之
也乃所以好之信之將大用之也何則使講聖教者
能得其道則由聖教可以益明
神聖之大道也誠使
神聖之大道明則雖有此數者焉能得乱之矣悉所為
養於大道中而已不足為深憂也矣是吾所以不責

彼而獨責此也雖然吾無能闢邪妄明大道而示於
天下後世之才学又無能施之於當世而新天下之
耳目之德位是以雖所見明雖心志切亦何神之有
徒滞居蟄廬獨慷慨悲憤大息而已噫矣

長谷川元亮稿

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

書藤田彪孟軻論之後說

水府之臣藤田彪為孟軻論其言切當其意精誠
神州固不可無此論也特
神州非不可無此論而已天地間不可無此論也夫
天在上地在下君臣定矣若天可為下地可為上則
雖無此論可也苟天不可為下地不可為上則天地
間不可無此論也亦明矣然而欲終此論則非彼問
堯舜議禹湯文武論周孔則不能終此論也自堯舜
至周孔於漢土尊信之則雖非所問

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

神州亦
列聖信之天下尊之故議之則幾乎無忌憚古今俊
傑之士豈盡無識見哉唯欲避其無忌憚之嫌而不
敢也故彪之論亦未盡其說未能盡其說則亦將使
腐儒陋士得議於其後吾故不避無忌憚之嫌而欲
終其說蓋避避無忌憚之嫌者姑息也不避無忌憚之
嫌者以有深憂也如彼淨屠亦上下古今尊信之而
不置或至於王法佛法並稱而有議者排擯之不遺
餘力者是亦雖幾乎無忌憚未聞天下以無忌憚罪
之也至於排儒則或云議
先王之典其罪不薄是非甚惑乎排佛与排儒於孎
先王之典何有異哉其所議之當不當其
神州敬
先王欲令斯道益明也故可論其所議之當不當其罪之也余藏此說於
心之誠不誠而徒以議之不可罪
胞中有年而未嘗輕筆之書以示人是亦以有深憂
也今也及見彪之論欲已而不能遂發此說夫君臣父
子夫婦所謂三綱也於父不可為子於夫不可為

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

不可為婦二不可為夫則雖白面之書生能知之於
君不可為臣二不可為君則雖漢土人幾乎不知之至
於如彼遠西諸國則合与夫不可為婦二不可為夫
者而幾於不知之唯
神州三綱正而大道全矣是以
國體之尊嚴冠於天地也矣彼堯舜之授受雖謂盡
美盡善比之於湯武之放伐則似於盡善美質之於
天地之至道則何可謂盡善美邪矣其擧雖誠出於
不得已而有至理存於其中不得已之事固第二等
之事而非第一等之事也如之何可為天地之至道
而為天下萬世之大訓也比之於
天統一姓相將神孫上下守分天下又安与天地無
窮而大道全者則豈啻霄壤哉況堯有其子九男而
無一人可為嗣者乎雖不能如堯二德以化之賢良
以輔之則豈九男中一人不能為中人乎苟有一人
為中人者則舜奉之佐之擧賢良而謀萬機則天下
何不能治之有況雖有洪水之災於無大禍乱乎若
信謂無人為中人者有之則聖人何惡子之多也何

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

時於教子之道也為聖德之累甚矣苟使堯之子無一人可為嗣者而誠出不得已則舜何辭於堯也何避於南河之南也天下無主而可乎是不信堯之言而不思天下億兆也至理之所存至公之所在何須避嫌疑其辭之不可及再三也舜辭之真心也避之亦真心也由是觀之則堯之子非無一人可為嗣者可知矣其德不遠及舜耳其所以朝覲訟獄者不之堯之子而之舜之者雖則由舜之德而亦堯用舜之德也然則為舜者宜大稱堯之盛德明告天下億兆以吾君之子也不可不奉之意而率朝覲訟獄於己者以所以事堯事堯之子也不出於此而自有天下雖無意乎有天下未足以為盡美善美也矣且天下之億兆亦盡堯之民而不知事堯之子至於禹讓益天下之民不之益而之啓曰吾君之子也堯之德不如禹歌抑天下之民唯知利於己而不知義於其君欲可怪也矣禹欲授益而避之益避之是也禹欲授之則不知天不知人亦不知子也若舊之於天而天不受暴之於民而民不從屏其子而子為嗣未達天人而欲

為大事亦不危哉是所以致君威遂不重也何可謂無
間然邪湯放桀有慙德以有所不慊於其心也乃
其本心也苟使其舉出不得已之至誠則宜奉桀之
子弟以君之舉天下之賢俊以輔翼之迓奸邪誅殘
賊置天下於泰山之安而後退自責舉兵放君之罪
而為天下分一死也若是則上安國家而不失敬君
之誠下救生靈於塗炭而有愛民之実雖非等一等
之事庶幾亘萬世而可無斁也矣不能然而自取有
之不可謂無私心雖恐來世以台為口実夫何益之
有矣文王三分天下有其二而服事於殷雖稱至德
是亦殷周間之至德耳文王乃殷之臣也所有乃殷
之土地也人臣而掠有君之土地者何可謂至德邪
矣說者或云非有其土地一得其人心也若如其言
則舍己之君而通心於他人者豈人臣之道哉不能
使其失臣道者導之守臣道而又更仁之仁人固如
此欤為人臣止敬者又如此欤以是観之則文王有
代殷之志可知矣武王周公乃繼其志述其事也儻
謂非之文王之志則武王周公其為不孝不忠也亦

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

大矣武之伐紂雖謂順天應人其實誣天欺人也矣
後世行簒奪得其志者亦非無天命然而謂之應於
天心可乎周世為殷之臣浴其澤久而其至於責紂
則發所仁人君子不忍聞之言且曰撫吾則后虐我
則讎獨夫受洪惟作威乃汝世讎雖後世反逆之賊
未曾発如斯之言也孟軻曰君之視臣如草芥則臣
視君如寇讎其對為君者而言之尚以為失言況武
王對衆士何心能忍而発此言邪以其言察其心則
謂簒奪亦可也故殷人多不服者雖周之為頑民其
實非頑民也如之何可謂盡美邪蓋美者善之精
華也善者義之實也未有其實不充而其精華全者
也矣周公輔武王伐紂無異於武王然而周代行弑
虐者魯国為其魁昭王不能討之而昭王亦次遇弑
聖人之国何如此也所其自秉可察耳孔丘祖述堯
舜憲章文武既問堯舜議文武則不復論焉且孔丘
事父母之国而其官至師冦當其去而不及一諫其
跡似於薄夫之避難周流列国而可則止不可則顧
之他頻如無定見其跡類於鄙夫之求主雖有至理

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

存於其中其道終不見行則其至理亦不可無瑕也
退而作春秋雖其書可為天下之法其事則天子之
事也匹夫而為天子之事僭偷既甚矣自犯僭偷之
罪而欲使人無僭偷豈可得乎吾故嘗曰孔丘作春
秋而亂臣賊子懼矣吾未
見其實也矣然而軻亦自所不為亂臣之者其間相
去幾許也矣觀其說王道君臣之道殆拂地矣其說
雖有所異乎孔丘而不無淵源也苟非塞其源則焉
得防其流是吾所以不避無忌憚之嫌而発此說也夫堯

舜之禪讓為湯武之放伐湯武之放伐為後世之篡
奪遂為夷狄之所蹂躪而聖賢礼義之國変為左衽
之俗先王数千年之赤子盡為醜虜之奴誠可為痛
哭流涕長大息也此雖有所因於其天時水土之自
然然亦幾乎不知君不可為臣不可為君之禍也
矣其始雖微其終至於不可救如斯豈可不戦慄戒
懼乎哉矣蓋天下之治乱所係於君臣之者大且急
也故君臣之大義明則天下治君臣之大義不明則
天下乱所以漢土乱日多而

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

神州治日多也治日多而後彝倫可全也漢土之人言語文章常過其實故雖聖人有其實不及其言者況於其下者乎況於不務其實者乎是故能談仁義而仁義常不明能說彝倫而彝倫常不全不可不深察也矣悠則彼聖人之教不足用欤曰否三夫聖人法天地以立德立言天下萬世由是而尚能知叙天倫矣是以聖人与天地同其德者也故其教亦能符合於
神聖之大道是所以

神皇取而用之也如之何可不尊信乎哉矣於事之關係乎君臣者則大旨不符合者是所以其国有所大道未全而所以不可。（不）議也特非孟軻之書可取捨而已六経亦可取捨也矣況於不若六経者乎況於有天時水土之異者乎世之儒生之徒知（有）文学而不知有大道徒眩其言語文章而不察其實漫唱空文而醉其糟粕故讀六経而不能達於六経之真理誦彝倫之文而不能辨彝倫之為何物況望識得天時水土之宜者乎哉是以空言虚談邪説妄言充於天

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

下而人為之惑風俗為之壞大道為之不明
國體為之損終至於使聖教益廿而害多可勝嘆哉
是所以世之或有欲廢聖教者也雖然何以俗儒之
故可廢
神皇取而用之所以弘
神聖之大道之聖教哉矣吾所以議之者則所以
大用之也蓋由是以開眼目則可聖教悉為吾用而
吾不為聖教之用也苟能使聖教為吾用則依之以
益明

神聖之大道可愈益
神州之光輝信能若是則於
神皇取而所以用之意庶乎不差欤矣是所以吾
深望於世之講聖教者也矣

高野君以藤田彪之孟軻論示元亮見求評之
以故遂為此說論者或云元亮為此說而彪之
志孤也若云爾則其說亦甚有在焉僕固不文
無論其文之於不文又無論於轉到錯乱於其
意則不無所少得雖然書不盡言言不盡意如

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

此説雖累千百言尚未得盡其意請
高明察之又請有所少取則賜正削

長谷川元亮稿

贊藪序

余嘗讀書有所疑而不能解則必反復思之思之不已則或得其解或不得其解而還置之心中久之或得其解或不得其解而還置之心中如此者數十年而後或得其解或不得其解而還置之心中如此者數十年而後或得其解或不得其解而還置之心中如此者數十年而後

本史ニ題辞ノ初ニ神代ヲ載セラルル義ヲ私ニ斟
シラレタル叙文表之ヲ義理曖昧ニシテ
ルヲ要領ヲ得ズ況西土ヲ史筆倭儒ヲ俳ヲ至ヘテ全篇其
息気ヲ受ケルノ如キニシテ甚ノ階旬倭ニシテ手筆ニ非ス
ラシテ公其責ヲ免レノ如キ歟ノ一
ラヘキヲ 仍帝ト書シ国ト書シ天皇ト書
称呼ヲ乱ルヲ小ニシテサレルニアヤ
ヲ只帝ト云ヘルノミニシテ天皇ト云ヘルノ
後裔ニ比セラレル不敬ノ罪ニ陥ルヲ漢土人
ヲ

準的ニシテ 天朝ニ名賢ヲ議セラルル主客ト倭ノ正朔
神ニシテ此ヲ異ニシ不南不敬ニ陥ルヲ
シ 天皇ヲ非ヲ議ルニ漢土人ヲ異代ニ王ヲ論ルガ如
ニシテ敬忠側但ヲ意ヲ不敬不
天皇ヲ非ヲ議ルヲ勧懲ヲ備ヒ
直言ハ勿ヲ直言ヲ苦ラヌヲ
事ノ其 天皇ニ対シ奉リ親諜ヲ
ヲ誠ヲ出ヘキヲ不敬ヲ責免ルヘキヲ
ヲ漏ラサヌ実ハ極ヲ厳責ヲシテ

[illegible]不佞と呼ぶ[illegible]一言も[illegible]
好悪し私に淫り儒家者流と[illegible]
佛を非[illegible]て佛者を不悪気に不[illegible]其他是を
是[illegible]非[illegible]て其実を過[illegible]
淫之過(高保を)仰くへくもあらす[illegible]
い甚不[illegible]
汚高望[illegible]
無名氏再稿

書垂仁狭穂姫皇后傳賛之後

天朝之上世兄弟叔姪為婚者何有害於倫理哉矣
後世禁之者非為有害於倫理以有害於人事之故
而已夫兄弟叔姪同居而相乱則甚有害於人事故
厳禁之上世淳朴相乱而実害人事者蓋鮮矣故無
禁也抑同姓不娶者周之制也是亦以有害於人事
之故而已夏殷以上不聞禁同姓之婚也　天朝之
上世　天子非同姓不娶諸侯非[illegible]祖先之遺體也其義
美於同姓不娶之制矣蓋大極生両儀[illegible]相交而

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

生ゝ不息而儀即兄身也故兄身為婚於義固無害矣或曰然則以姉為妻亦無害欤曰無害矣周公叔也成王姪也以叔為臣猶無害以姉為妻父許之人許之則何有害於倫理乎夫腐儒陋士妄意議天朝之制者則不知而言之者而已固無足論者矣嗚呼水戸公之賢明而猶有此言恐公亦有所未明倫理之大本欤誠可嘆也已曰然則當今世兄身叔姪為婚而可欤曰吾當今世兄身叔姪為婚則大有害於人事而遂至於害倫理矣是以此禁一立而後犯之則誠禽獣也矣　天朝無同姓不娶之制而西山公以同姓不娶之義辞紀伊公之婚是何之義欤公亦阿於周制欤侈於所好之儒欤可恠也矣

書近衛藤原皇后傳後

慶中天皇之皇后尊香懿梭姫再為　雄畧天皇之后事雖日本書紀載之恐史臣之諛傳語筆也矣何者　慶中天皇六年立懿梭姫為皇后當此時姫年為十五則歴　及正乙恭安康三　皇至於雄畧天皇元年再為后時姫年六十七而　雄畧

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

天皇四十也自此前、安康天皇元年以幡梭姫
始為雄畧天皇之妃時、姫年六十四、天皇
三十七也何三十七之老姫始為妃之有乎哉然而
后時年七十七也七十七之老天皇亦何有三十五
之后哉若以后之年為多於十五則雄畧天皇
始為妃時姫年及七十也由是觀之謂幡梭姫再為
后者同名別人歟或出於謬傳愼辱明矣水戸公不
察之猥信之不疑誠不思之甚也矣如二條天
皇以迫衛天皇之后強再為后者開闢以來斷
所無也故天下深嫉之矣
書皇太子莵道稚郎子傳贊後
稚郎子太子之讓固是也致死而讓之亦是也至於
致死讓之而大鷦鷯皇子即位誠不得已也不然則大
鷦鷯皇子亦至死可不受其讓矣是則 皇国心
之精英者而至大至剛充塞於天地者也雖然水戸
公謂讓之久而不許其請則歸即位可也則猶是可
也欲使之效於泰伯夷斉之徒則甚不可也夫泰伯

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

逃而古公不追之季歷不求之乃靦然受国而不知
避譲之道其子昌亦不知據於泰伯之子夷斉逃而
国人不追之仲子不求之頑然受国不不知有避譲
之道其不義頑妄誠可媿也若使二皇子效於泰伯
夷斉之所為則所在之一皇子必伐木薙草而大求
即位者哉雖社稷不可無主帝位不可久曠義之所
在久曠之亦何有所害哉然而水戸公以吾賢皇子
欲使效於不義頑妄之季歷仲子之徒不思之甚也
且泰伯之譲夷斉之逃亦非無可議者何則古公欲
傳季歷及其子昌以大起其家則不義之大者而私
心之甚者也泰伯譲而使父成不義之志則是興於
父之不義者也且不可謂之孝矣夷斉諫之不(於)知死所則
則其逃或惜死亦不可知何者武王伐紂夷斉諫之
以君臣之義苟以紂為君則武王其君之讎也焉君
之讎而不知死之於其不戴天之義似未盡其道矣
是則謂不知死所可也元亮每論漢土人物以泰伯

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

雖如此孝徳天皇意實深愛之以是欲以為嗣

○雄朝津間稚子宿禰天皇崩太子木梨輕皇子當立而未即位穴穂皇子窺伺神器陰謀襲奪乃作兵器將襲太子

夫齊尓為賢然而深論之則猶有可議者如此矣

應神天皇欲立雄朗子則雖出於老心慈愛之過然其間誠実和睦之意藹然存焉非古公深抱私意之比也雄朗子不傷其志大鷦鷯皇子順養其意孝之至也

應神天皇崩而雄朗子交意讓之義之至也又神父皇之遍也至於致死而讓之則仁之至義之盡也以之訓於天下後世何有所害苟善以二皇子為訓則何有

天智天皇之亂命与大友天武二皇之貪位起禍乱哉水乞公乞論甚不當

張弘

三徳天皇由是観之

国政亦未可知矣且以吾

賢皇子比方異邦小国之子男則不敬之至也又欲使

皇子效之則不類之至也公之賢而猶如此則是侮儒之漸使然欲誠可惜矣且以母妹八田皇女進大鷦鷯皇子為妻倫理者亦甚不然之亮於狹穂姫皇后傳賛後詳論之故不復論

書皇太子木梨輕傳賛後

皇太子木梨輕以与母妹茲深罪之由是観之則自此前同母兄弟之婚忽已有厳禁蓋同母兄弟同室而尤親故易相乱是以早已有此禁矣自此後歴数

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

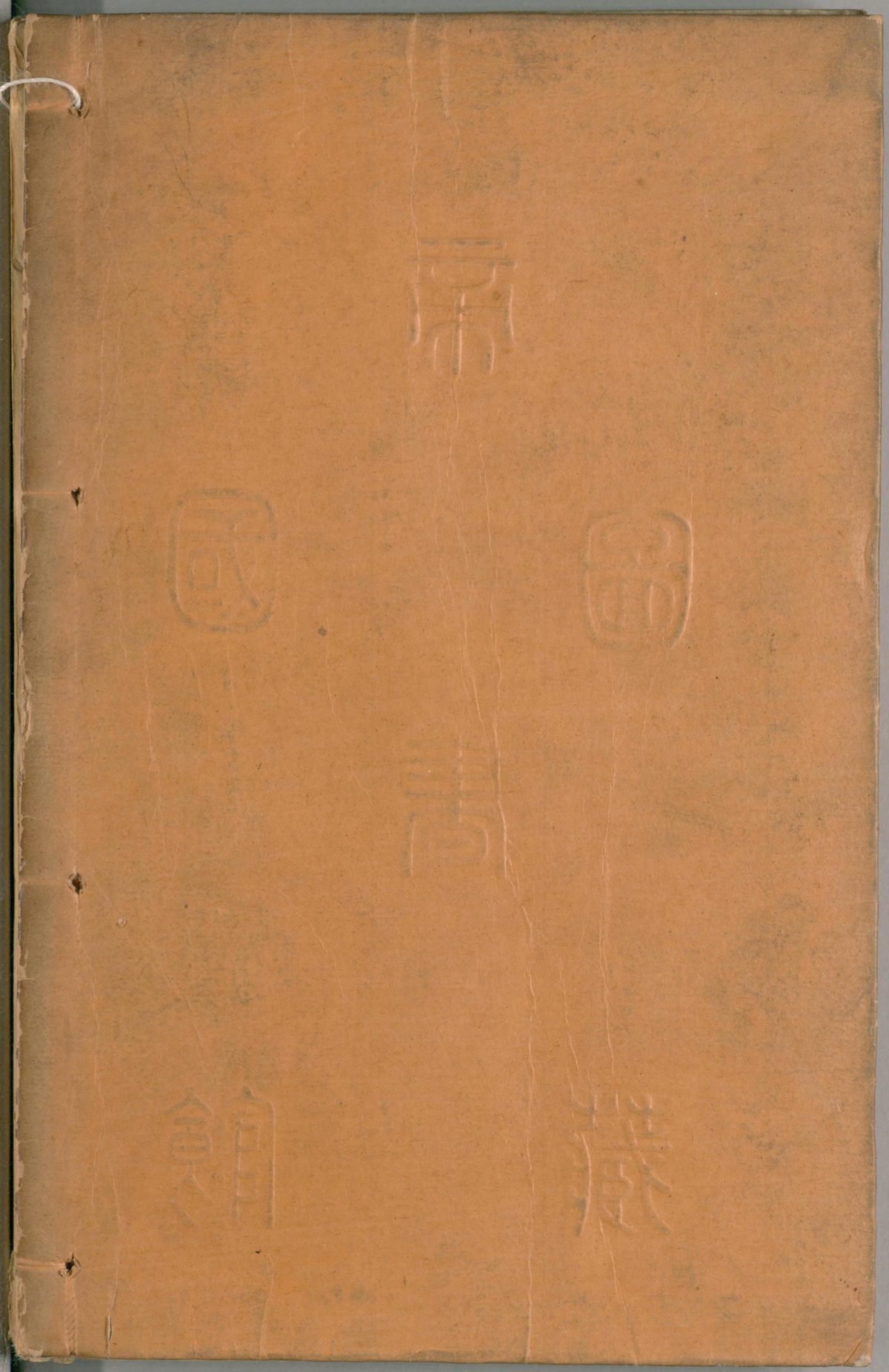
世、敏達用明之后妃、共異母姉也、然則異母兄弟之婚未有禁可知矣、其後無有姉妹具后妃者、則異母兄弟之婚亦往〻有禁欽至於叔姪之婚則歴十世之後至於後宇多天皇歴有叔姪具后妃則叔姪之婚尚未有禁也、於倫理固無害矣、雖然此禁一立而後犯之則大有害於人倫比之於禽獣可也矣、

無名氏謹識

836
209
3

国立国会図書館　　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用